

仲  
原  
正  
治

のまちある記

東京の魅力と危機感 その2 編



左：パンダの雄「リリー」 右：笹を食べるパンダの雌「シンシン」

- 目次： 2P～ 心の駅—パンダ、アート、アメ横—上野  
9P～ 大学と銭湯のまち—千住  
18P～ 今も昔も変わらぬ魅力—浅草  
25P～ 奥深いまちの悩み—下北沢  
36P～ オタク・学生・哲学のまち—中野  
45P～住みたい街NO.1の実力—吉祥寺

## 1) 心の駅—パンダ、アート、アメ横—上野

筆者の世代は、「上野」を語るとき「上野のおやまの西郷さん」というふうには、「上野の山」という表現をしていた。上野駅の記憶は集団就職、出稼ぎなど、昭和 30 年代がそのまま心に残っている。上野の山の花見、美術館・博物館の存在も欠かせない。動物園にパンダが来たのは 40 年前だ。上野は文化の中心であり、東北人の東京の起点だった。しかし、2013 年には、宇都宮線、高崎線、常磐線などが東京駅まで乗り入れ、東北の起点としての座を奪われることになる。今回は、上野の今を、ノスタルジーに浸りながら歩く。



寛永寺根本中堂。現在の敷地は約 3 万坪で最盛時の 10 分の 1 となっている  
撮影：2012 年 10 月 31 日



寛永寺清水観音堂。重要文化財。寛永寺は不忍池にある辨天堂などを含め上野の社に 19 カ所、点在している  
撮影：2012 年 10 月 31 日



葵の紋章も厳かな寛永寺霊園。徳川 15 代将軍の内、綱吉、吉宗など 6 人が埋葬されている  
撮影：2012 年 10 月 31 日



ハスで埋め尽されている不忍池  
撮影：2012 年 10 月 31 日

### 寛永寺から始まり、上野戦争で焼失、文化ゾーンへ

上野の地名は、伊賀上野にある藤堂家が屋敷を定めたことから由来すると言われていた。上野の山が歴史の表舞台に出るのは寛永二年（1625 年）、江戸城の鬼門に当たる上野に、天海僧正が徳川家の菩提寺として寛永寺を造営したことに始まる。平安時代に最澄上人が開いた比叡山延暦寺が京都御所の鬼門に当たる場所に設置されたことを見習ったもので、東の比叡山という意味を込めて「東叡山寛永寺」と名付けられた。最盛期には現在の公園を中心にして 30 万 5 千坪の敷地を持っていた。元禄時代（1600 年代後半）には、寛永寺境内は花見の名所として、多くの花見客が押し寄せたという記録があり、現在の公園の花見と同じ光景が江戸時代にもあった。

1868 年、西郷隆盛率いる新政府軍と彰義隊との上野戦争が勃発、寛永寺の伽藍の大部分は焼失、その後、明治政府に境内敷地は没収され 1879 年（明治 12 年）に寛永寺の復興が認められたが、敷地の大部分は没収された。

上野公園は、自然を残した方が良いというオランダ人医師ボードワンの進言で、1873 年に日本最初の公園に指定され、76 年に天皇陛下も出席され開園式が行われた。77 年には第一回内国勸業博覧会を開催。国内から 8 万点余の工芸品が展示され、3 カ月余で 45 万人の集客があった。この時に美術館が作られ、後日、「博物館（現在の東京国立博物館）」の一部として活用されたが、関東大震災で損壊し現存しない。

1882 年に国立博物館と付属動物園が開館し、文化的な利用が始まった。寛永寺は縮小されたが、桜の名所は健在で、その後も市民に親しまれる公園として愛され、公園の片隅にある自然の池「不忍池（しのばずのいけ）」が静かな情緒を醸し出していた。

1883 年に日本鉄道（私鉄）の上野駅ができ、上野—熊谷間の鉄道が運行を開始。85

仲原正治

の

まちある記

年には煉瓦造の上野駅が竣工。91年に上野—青森間が全線開通することで、北のターミナル駅としての地位を確立する。このころから上野駅周辺は東北の玄関口として繁栄していくことになる。

## 集団就職「金の卵」

「どこかで故郷の香りを乗せて 入る列車のなつかしさ 上野はおいらの心の駅だ くじけちゃならない人生が あの日ここから始まった…」(作詞：関口義明、作曲：荒井英一、昭和39年)

この歌詞で始まる井沢八郎の「ああ上野駅」は、「金の卵」といわれた集団就職の若者や出稼ぎの人たちの愛唱歌であり、上野駅が東北の玄関口だったことを物語る。

「金の卵」とは、新制中学校制度になった1948年ころから中学卒業後に高校に進学せずに就職した、主に東北地方から東京圏に就職した人たちを指す。東北には就職口が少なく、特に農村部の二男三男にとっては、地元での就職口はほとんど皆無であった。その一方で急速に拡大する京浜工業地帯の働きの手の不足を補うため、貴重な戦力としてもてはやされた。



80年間変わらない上野駅。1932年築  
撮影：2012年10月31日



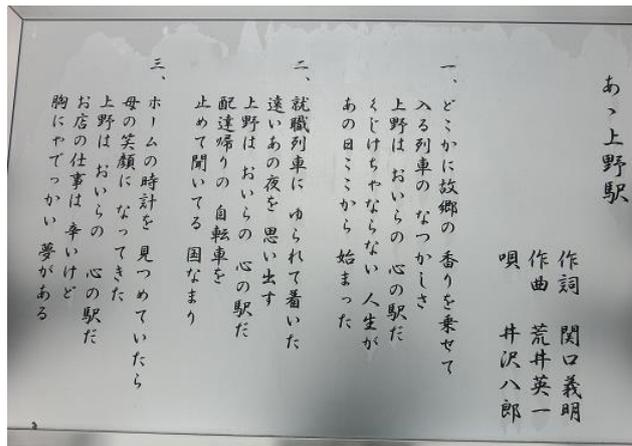
当時の面影を残す上野駅14番ホーム。集団就職列車が着いた18番ホームは廃止されている  
撮影：2012年10月31日



トラス構造の鉄骨が美しい  
グランドコンコース  
撮影：2012年10月31日



集団就職列車が着いた時の写真。「ああ上野駅」歌碑より撮影  
撮影：2012年10月31日



「ああ上野駅」の歌詞(撮影：2012年10月31日)

昭和30年代後半から日本経済は高度成長期に入るが、彼らは低い賃金で製造業や建設業、理髪店などで働くため、経営者にしてみるとまさに「金の卵」であった。定時制高校に通う若者も多く、東北地方から来た若者が、仕事と勉学を両立させ、将来は独立して一家を構えるという夢を抱いていた。日本経済の成長は労働と教育が一緒になって支えてきた。

当時の大学卒に比べて中卒は3分の1程度の賃金で働いていたといわれている。そのうち蕎麦屋や理髪店など手に職を持つ仕事では、10数年頑張ればノレン分けをして独立させてもらえるなど徒弟制度的な習慣があり、将来の夢や希望に繋がっていた。

仲原正治

の

まちある記

多くの「金の卵」は京浜工業地帯の中小企業を中心にブルーカラーと呼ばれる第二次産業の労働者として汗水流して働いていた。働き手の確保のために、大田区や川崎市、横浜市鶴見区などでは、企業や地域をあげて厚生施設をつくり、県人会への参加などを促していた。このころの地域のコミュニティは、祭りや地域の清掃などを一緒に行うだけではなく、米や醤油を隣家から借りることも当たり前で、人と人との交流は温かく、心豊かな地域生活だった。

毎年3月末には、青森駅を夕方出発する集団就職専用の夜行列車が出発するホームで、見送る家族と東京へ向かう中学生の別れのシーンをテレビニュースで放映し、青森、八戸、盛岡と順次リレーで中継していた。また、翌朝、上野駅で企業や就職先の人が出迎えるシーンも放映されていた。昭和30年代から40年代前半の風物詩であり、最盛期の1964年（昭和39年）には35の都道府県から7万4千人余の若者が集団就職で上京した。その後、産業構造の変化や高校進学率が高まり、75年3月を最後に集団就職列車は廃止された。

ちなみに、東京都区部の人口を比べると戦後2年目の1947年は約417万人、1965年は約889万と18年間で倍増している。その後、区部の人口は現在まで増えていない。相当数の東北人が東京に定住したと考えられる。読者の祖父母、父母が東北出身という人が、必ず近くにいるはずだ。東北からの就職者が東京や日本経済を支える大きな力となっていた。

## 歌や噺で綴られる上野駅

1923年（大正12年）、関東大震災によって上野駅周辺は焼け野原となった。駅舎も全焼し、木造の仮駅舎で営業を続けた。新しい駅舎が完成したのは1932年（昭和7年）。このときの駅舎が現在まで使われている。バブル経済期には、上野駅にも地上300mの高層化計画が持ち上がった。ホテル、デパート、美術館、国際会議場などを複合したビル構想だったが、バブル経済の破綻によって計画は取りやめとなった。そのおかげで駅舎建物は保存され、改修工事等を行い、80年経った現在も昭和の時代を感じさせる雰囲気醸し出している。

昭和30年代に流行った4代目柳亭痴楽（りゅうていちらく）の噺「恋の山手線」では、「上野を後に池袋、走る電車は内回り、私は近頃外回り、彼女は綺麗なうぐいす芸者（鶯谷）、にっぽり（日暮里）笑ったあのえくぼ…」と上野から始まり、東京駅は最後の方で「思った私が素っ頓狂（東京）、なんだかんだ（神田）の行き違い…」と紹介されている。また、「上野発の夜行列車 おりた時から 青森駅は 雪の中…」で始まる津軽海峡冬景色（作詞：阿久悠 作曲：三木たかし 唄：石川さゆり）や、松山千春の「帰りたい」も、「…上野発 はつかり5号 見送れば 夕焼け」と上野駅が東北への旅立ちへの出発点であることを物語っている。



岩手県生まれの石川啄木の歌碑。上野駅14番ホーム近くに設置されている  
撮影：2012年10月31日

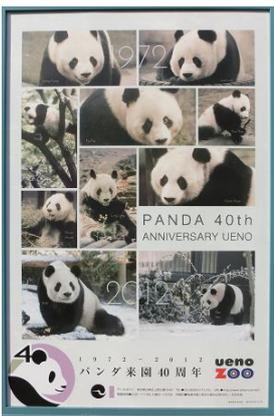
仲原正治

の

まちある記



小学生らが並ぶ開園前の上野動物園  
撮影：2012年10月31日



パンダ来園40周年ポスター  
撮影：2012年10月31日



パンダ厩舎に並んで見学する入場客  
撮影：2012年10月31日

この時代、東京地域の起点駅は上野駅で、東京駅はあまり取り上げられていない。東京題材の歌、島倉千代子の「東京だよおっかさん」は二重橋や九段坂だし、コロンビア・ローズの「東京のバスガール」、マイペースの「東京」も、あこがれの東京を歌っていて、東京駅を歌ったものではない。上野駅と東京駅との違いは、戦後の人間ドラマを数多く生み出してきたことであり、それは、今でも日本人（特に東北人）の心の中に残っている。

### 「パンダ」のいない上野動物園は？

「上野といえば…」という質問に対して、一位は「上野動物園」、二位は「パンダ」という答えが圧倒的だ。上野動物園は1882年、国立博物館と同じ時期に開園し、その後1924年に上野公園が宮内庁から東京市に払い下げられた。このため正式には「恩賜上野動物園」という名称になっている。上野公園も正式には上野恩賜公園という。

娯楽の少ない時代なので、家族連れで楽しめる施設として動物園は多くの客でにぎわった。筆者も子供のころに親に連れられて上野動物園に行ったが、当時は「象の花子」が人気で、愛くるしい鼻を上下させる姿に見とれたものだ。

1972年、当時の田中角栄首相が中国を訪問、周恩来首相との間で日中国交正常化の道が開けた。それを記念して2頭のジャイアントパンダが中国から贈られ、10月に来日、11月には公開された。公開日には2km以上の行列ができ、係員の「立ち止まらないで下さい」の声が聞こえる中、パンダの檻の前をゆっくりと歩きながら見る状況だった。「ランラン（雌）」と「カンカン（雄）」の集客効果は絶大で、後日、「人寄せパンダ」という言葉までできた。その年に上野動物園の入場者数は初めて年間500万人を超え、翌73年には700万人を達成。74年は764万人となり、今でもその記録は破られていない。

「ランラン」は79年に「カンカン」は80年に亡くなったが、その後もパンダ人気は絶大だった。「ホアンホアン（雌、80年来日）」と「フェイフェイ（雄、82年来日）」は繁殖を試みたが、なかなか成功しなかった。現在の「リーリー（雄）」と「シンシン（雌）」の間には2012年7月に子供ができたが、同月11日には死亡が確認され、全国のパンダファンが失望したのは記憶に新しい。なお、「ホアンホアン」と「フェイフェイ」までは、無償で中国から提供されていたが、「リーリー」と「シンシン」は10年間の契約で、総額約8億円の賃貸料を支払うことになっている。

上野動物園は、2004年に夏の期間の入場者数で初めて旭川市の旭山動物園に抜かれた。年間入場者数でも2006年度は上野動物園350万人、旭山動物園304万と肉薄された。2008年度は年間300万人を下回る290万人（旭山動物園は277万人）となった。パンダのいない上野動物園は客を呼べないという危機感が、賃貸料を払って

仲原正治

の

まちある記

でもパンダが欲しい要因のひとつになっている。リーリーとシンシンが来日した2011年度は、パンダ効果で前年比170万人増の470万人の入園者となった。

左：パンダの雄「リーリー」  
右：笹を食べるパンダの雌  
「シンシン」  
撮影：2012年10月31日



上野駅広小路口からすぐの  
場所の入り口看板は「アメヤ  
横丁」となっていて、飴店が  
並んでいた名残がある  
撮影：2012年10月31日



中央がアメ横センタービル。  
この場所の看板は「アメ横」  
となっている  
撮影：2012年10月31日



高架下の店舗。時計、革製品、  
バック、洋服など様々な店舗  
が軒を並べている  
撮影：2012年10月31日

## アメ横は買い物パラダイス

アメ横の成り立ちは、戦後のヤミ市が発端だ。焼け野原と化した上野、新宿、池袋などターミナル駅の周辺に、工場の残り物や中古の日用品、農家の野菜、穀物類などの食料を持ち寄り、空襲で焼けた跡地を不法占拠する市場ができた。戦後のヤミ市で有名なのは新宿だが、ヤミ市が発展して商店街になった場所は、東京では現在、上野以外では見ることができない。

戦後、物資の絶対的不足の中、1946年3月3日に公布された物価統制令で、流通する物資は価格が統制された。コメは配給制度で手に入れにくくなり、庶民は高くてもヤミで買わなければ生きていけない状況で、ヤミ市を利用するのが当たり前だった。コメは60年代に配給制度が廃止されたが、1972年までは制度上、コメを買うときは米穀手帳が必要だった。戦後4年目(1949年)に生まれた筆者は、母の背中におんぶされて近郊の農家にヤミでコメを買いに行った。列車に乗っていると警察官がヤミ物資の検閲に来て、没収されるが、子供連れだと大目に見てもらえたと母は言っていた。

アメ横の名前の由来は、アメリカ軍の横流し品が流通したことから「アメリカ横丁」となったという説と、サツマイモのでんぷんで飴を作っている業者がいて、そこを中心に飴を売る店が軒を並べた「アメヤ横丁」から来ているという説がある。どちらもそれらしいので、両方が合わさって頭文字の「アメ」をとって「アメ横」になったと考えるのが順当だろうか。1949年にGHQからヤミ市撤廃命令が出されるが、50年に朝鮮戦争が勃発。米兵が増え、米軍物資の横流しは続き、アメ横の好景気は続いた。その後、道路整備などがあり、それぞれの個店がまとまって現在のアメ横の姿になっていった。また、1981年にアメ横は火災に遭い、その跡地にアメ横センタービルが建設された。ショッピングモールの先駆けとして全国から大勢の客が訪れた。

仲原正治

の

まちある記

アメ横の正月用品の買い出し風景は暮の風物詩となっていて、テレビ各局で中継されている。一日 50 万人に上る客がアメ横に殺到する暮は、人が多すぎて買い物もできない状況だ。さすがに筆者も暮れには行かないが、雑踏が好きなので平日によく訪れる。平日でも 10 万人ほどの客で賑わっているが、買い物をするときは必ず値切ることになっている。必ず安くしてくれるので、得した気分になる。値切るとはアメ横では常識と心得ている。

## 美術館・博物館の町

上野が文化芸術の拠点として確固たる地位を得たのは、戦前から多くの美術館、博物館ができたことと東京藝術大学がこの地にしっかりと根を生やしていることが大きい。

1884 年（明治 17 年）文部省に図画教育を目的とした図画調査会が置かれ、官営美術学校を設立することが決定され、翌 85 年に図画取調掛がおかれた。アーネスト・フェノロサ、岡倉覚三、狩野芳崖などが委員となり設立準備を進め、87 年には図画取調掛を「東京美術学校」と改称し、校則を定め、88 年 12 月に現在の上野に校舎を構えた。89 年 2 月に 5 年制大学として授業を開始している。一方、音楽系は 1979 年（明治 12 年）に文部省に音楽取調掛を設置。82 年に 4 年制の音楽専門教育の学制を施行し、本格的に近代的な音楽教育機関として動き始めた。87 年に「東京音楽学校」という名称になり、90 年に本郷から現在地に移転してきた。

二つの大学は別々の教育を進めていたが、1949 年（昭和 24 年）国立学校設置法の施行に伴い「東京美術学校」と「東京音楽学校」が統合され「東京藝術大学」が設立された。現在は上野を中心に、茨城県取手市や足立区千住、横浜市中区に校舎がある。

上野公園に、文化的な施設ができたのは、明治初期の内国勸業博覧会後に、「国立科学博物館」の前身である教育博物館が 1877 年に設置され、明治初期に設置された「文部省博物館」が 82 年に上野に本館（現在の国立博物館）を設置したのが始まりだ。国としては、寛永寺の敷地を取得したことから、都心の一等地である上野を日本の将来を担う人材育成や文化推進の場所として活用しようと考えたと思われる。

その後、1926 年（大正 15 年）に東京府美術館（現在の東京都美術館、設計：岡田信一郎）が北九州の石炭王・佐藤慶太郎の寄付をもとに造られた。戦後は、1959 年に国立西洋美術館（本館設計：ル・コルビュジエ）、61 年に東京文化会館（設計：前川國男）などが造られ、上野は美術館・博物館の集まる日本有数の芸術・文化ゾーンとなっていった。



東京国立博物館本館。現在の建物は 1937 年築。設計は渡辺仁  
撮影：2012 年 10 月 31 日



国立科学博物館上野本館。現在の建物は 1931 年築。設計は文部省の小倉強  
撮影：2012 年 10 月 31 日



東京芸術大学赤レンガ 1 号館。1880 年築。設計は林忠恕。旧教育博物館書籍閲覧所書庫は、門を入れて守衛所の裏手にある  
撮影：2012 年 10 月 31 日

仲原正治

の

まちある記



朝から行列を作る上野の森美術館。ツタンカーメン展が2013年1月20日まで開催されている  
撮影：2012年10月31日



彰義隊の墓。1874年設置  
撮影：2012年10月31日



西郷隆盛像。1889年設置。高村光雲作。犬は後藤貞行作  
撮影：2012年10月31日



天海僧正の毛髪塔。天海僧正が1643年に108歳で亡くなった後、墓は日光輪王寺に、供養塔は上野に建立された。その後、伝来していた毛髪を納めたと寛永寺ホームページに記載されている  
撮影：2012年10月31日



上野恩賜公園の案内図(撮影：2012年10月31日)

## 上野界隈を歩く

平日の朝8時40分に上野駅に着いて、上野公園に入ると、すでに美術館などには多くの人が列を作っていた。上野の森美術館で開催している「ツタンカーメン展」の入場者だ。上野動物園や東京都美術館にも行列があったが、動物園は子供たちが、美術館には初老の人が多かった。

上野に多くの近代建築が残っているのも建築好きの筆者には魅力だ。オフィス用途の建物は経済性優先で次々に建て替えられてきたが、博物館や美術館は建物自体が文化財であることも重要な要素となっており、壊されることは少ない。建物は上野公園の周辺に配置されており、公園中央部分は桜並木で、春には大勢の花見客を引き寄せる。

公園内には偉人の銅像が数多く設置されている。西郷隆盛やボードワンは、上野とのゆかりがあり理解できるが、野口英世像が設置されている理由はわからなかった。西郷隆盛像のすぐそばに彰義隊の墓があるのは、歴史を感じさせる。不可思議なのは「天海僧正の毛髪塔」だ。108歳で亡くなった天海僧正に毛髪がたくさんあったのだろうか。毛髪を祭って何か御利益があるのだろうかかと首を傾げてしまう。動物園には、9時半の入館時間一番に入ったので「パンダ」をゆっくり見ることができた。ゆったりとしたユーモラスな動作は子供だけではなく多くの人を和ませる。動物園にはパンダ以外にもたくさんの動物がいて、家族連れだけではなく、若い人でも楽しい時間が過ごせる場所になっている。

仲原正治

の

まちある記



黒田記念館。1928年築。設計は岡田信一郎。耐震補強工事を行っていた。  
撮影：2012年10月31日



国立こども図書館。1906年築。設計は久留正道、真水英夫、岡田時太郎。旧帝国図書館で、戦後は国立国会図書館支部上野図書館として利用。2000年に国立国会図書館国際子ども図書館として開館した。改修設計は安藤忠雄  
撮影：2012年10月31日



旧岩崎邸庭園。1896年築。設計はジョサイア・コンドル  
撮影：2012年10月31日



屋間から酒を呑める店が軒を連ねる御徒町駅前通り付近  
撮影：2012年10月31日

近代建築が好きな人は西洋美術館、東京都美術館、国立科学博物館、国立博物館など公園内の近代建築を巡った後、黒田記念館、国際子ども図書館、東京芸術大学赤レンガ建造物を回遊するのが楽しい。



左：上野公園の生みの親、ボードワン博士像。高さは2m弱だ(撮影：2012年10月31日)

試験管をかざす野口英世博士の像。高さ4.5mある。顔の部分が光っているのは、アート展の作品の一部がかぶっているため(撮影：2012年10月31日)

近くの寛永寺にも立ち寄ったが、昔の隆盛の面影を感じさせないほど小さかった。寛永寺のすぐそばには谷中霊園があり、徳川最後の将軍徳川慶喜がここに眠っている。谷中霊園の参道にあるパティシエ「イナムラ ショウゾウ」で「上野の山のモンブラン」を食べ、元気をつけて、東照宮から不忍池を巡って、旧岩崎邸庭園でジョサイア・コンドルの建物を見た。大満足である。

平日のアメ横も人出は多い。様々な商品が並んでいるだけでなく、店頭立つ売り子の口上を聞くだけでも楽しい。ガードの反対側の御徒町駅前通りには屋間から酒を呑める店がたくさん軒を連ねていて、乾杯している姿の人も多い。東京駅周辺とは違った雑踏感や猥雑さが上野を庶民の町にしている。

上野駅広小路口の手前に「ああ上野駅」の歌碑がある。構内に入ると当時の建物をリニューアルして2002年にオープンしたATREがあり、グランドコンコースには朝倉文夫作のブロンズ像「つばさの像」(1958年設置)や、平山郁夫のステンドグラス「ふる里日本の華」が展示されている。中央改札口の上には猪熊弦一郎作の壁画「自由」(1951年)が掲げられ上野駅を彩っている。

1982年に大宮—盛岡間の東北新幹線が開業。1985年に上野—大宮間が開業し、上

仲原正治

の

まちある記

野駅が起点駅になった。しかし、91年には東京駅まで延伸して途中駅となってしまった。2013年に上野ー東京間に東北縦貫線（上野東京ライン）が完成すると、常磐線、宇都宮線、高崎線が東京駅まで乗り入れ、東海道本線との乗り入れも可能になる。これにより、東北の起点としての座を奪われることになる。

しかし、そうなっても東北人にとっての「こころの駅」は上野駅である。上野こそが「心の駅」であり続けてほしいと思う。



朝倉文夫作のブロンズ像「つばさの像」。1951年設置  
撮影：2012年10月31日



平山郁夫作のステンドグラス「ふる里日本の華」。1982年設置。東北・上越新幹線開通記念で作られ新幹線コンコースにあったが2002年に上野駅構内に移転した  
撮影：2012年10月31日



左：「ああ上野駅」の歌碑（撮影：2012年10月31日）



右：猪熊弦一郎作の壁画「自由」。1951年設置（撮影：2012年10月31日）

## 2) 大学と銭湯の町—千住

千住には江戸から昭和の歴史の一部が今も残っている。昔は、日光街道、奥州街道の最初の宿場で、品川、板橋、新宿と並ぶ五街道の主要宿であり、その中でも一番栄えていたと言われている。その後、普通の下町になっていた千住だが、今でも多くの銭湯が健在。最近では5大学を誘致して、いまや学生の街のひとつとなって賑わっている。今回は筆者が小さいころよく遊んだ町、千住を訪ねる。



三河島事故現場写真  
当時、カメラを持っている人も少なく、貴重な現場写真なので、写真は検察庁に提供され、事故後20年近く経ってネガが手元に戻ってきた  
(撮影：仲原秋治 1962年5月4日)

### 「三河島事故」と「お化け煙突」

千住には強く記憶に残っていることが二つある。「三河島事故」と「お化け煙突」だ。1962年5月3日、家族で母の実家の八潮市に法事に出かけて、午後9時半過ぎに草加駅から常磐線への乗換えのため東武伊勢崎線（現スカイツリー線）の北千住駅に着いた。その時、ホームの電気が突然消え、真っ暗になった。戦後最大級の鉄道事故「三河島事故」だ。当日、実家から乗ったタクシーがトラックの立往生で10数分間停車し、草加駅で前の電車に乗り遅れたのが幸いし、筆者はこの事故をまぬがれた。

法事の酒に酔っていた国鉄マンの父は、これはおかしいとすぐに駅長室に走り、事故が起きたらしいという曖昧な情報で、北千住駅からタクシーで現場へ向かった。それから3日間、世田谷の自宅には帰って来なかった。

下りの貨物列車（蒸気機関車D51：通称デコイチ）が脱線し、そこに上野発の下り普通列車が衝突し上り線に乗り上げた。さらに上り上野行き列車が進入し、線路上を避難して歩いていた乗客をはねたうえ、上り線に乗り上げた列車に衝突するという三重の事故だ。死者160人、負傷者296人という戦後最大級の事故。翌63年11月9日にも東海道線鶴見事故（死者161名、重軽傷者120名）があったが、この二つの鉄道事故の調査により競合脱線の解明などが進み、技術的な問題の解決を進め、ATS（Automatic Train Stop：自動列車停止装置）の発達を促進させた。しかし、その後も1991年の信楽高原鉄道事故（死者42名、重軽傷者614名）、2005年のJR西日本福知山線脱線事故（死者107名重軽傷者500名余）など、人為的な事故が続いた。

鉄道事故でもうひとつ印象に残るのが、2005年3月15日の東武伊勢崎線竹ノ塚駅の踏切事故だ。踏切の遮断機の誤開により、死者2名、負傷者2名を出した。亡くなった中国人女性は、親友の妻で、家族ぐるみで付き合いをし、筆者のいわき市の家まで何回か遊びに来る関係だったので、ショックは特に大きかった。この踏切は開かずの踏切としても有名であったにもかかわらず、人的な配置に任せてきた鉄道

仲原正治

の

まちある記



「お化け煙突」の当時の写真  
撮影：2012年6月7日



帝京科学大学敷地にある「お化け煙突」のモニュメント  
撮影：2012年6月7日



モニュメントの間から見える東京スカイツリー（スカイツリーデザイン監修者の澄川喜一氏（元東京芸術大学学長）は、お化け煙突のように場所によって姿を変えることを意識したと語る）  
撮影：2012年6月7日



延命寺境内。右上に小塚原刑場跡の首切地蔵の台座撮影  
影：2012年6月7日



回向院にある刑場の説明文  
撮影：2012年6月7日

会社の責任は重い。ひとりの担当者に責任を押し付けるのではなく、鉄道を運営する会社としての責任はきちんと取る必要がある。鉄道は私企業が運営していても公共的なものであり、電車の安全運行が基本であり、営利的な不動産業などに走るのではなく、まちづくりに積極的に寄与して沿線全体の利益や地域の活性化、安全に取り組む姿勢が重要だと思う。民営化後のJRにしても私鉄にしても、企業利益の追求が多く、地域貢献が少ない会社が多いことは残念だ。

「お化け煙突」は、1926年に隅田川沿いの千住火力発電所として稼働し、1964年に取り壊された。当時の燃料は石炭であり、水運の良い隅田川沿いが発電所の適地として選ばれた。なぜ、お化け煙突と言われていたかというと、4本の煙突が薄い菱形上に配置されていて、見る場所によって1本にも2本にも3本、4本にも見えるためだ。小学生のころ常磐線の車中からお化け煙突を見て不思議だなあと思っていた。取り壊し後、敷地は足立区元宿小学校として利用されていたが、廃校になり、現在は帝京科学大学千住キャンパスに生まれ変わった。隅田川沿いの大学敷地に「お化け煙突モニュメント」がある。

## 千住宿を歩く

隅田川はもともと荒川の下流部分の名称として親しまれてきた。相次ぐ洪水、特に1910年（明治44年）の大洪水で浅草などの下町がほとんど浸水、死者324名、流失・浸水家屋約85,000戸という水害になった。そこで荒川の改修が必要となり1911年から1930年にかけて、荒川（隅田川）の北側に新たに荒川放水路が整備され、現在はそれが荒川の本流となり、隅田川は北区岩淵水門から東京湾までの約23kmを指すことになった。江戸時代には荒川（現隅田川）に千住大橋があり、それを渡ると千住の宿場で、渡った後は草加方面まで平地が続いていたことになる。

常磐線南千住駅を降りると、駅からすぐの場所に小塚原刑場跡がある。1650年ころに創設され、江戸時代から明治初期まで使われた刑場である。鈴ヶ森刑場、大和田刑場と並ぶ3大刑場であり、跡地は現在「延命寺」となっており、ここには首切地蔵がある。隣の回向院（えこういん）には橋本左内、吉田松陰など安政の大獄で処刑された志士たちも埋葬されている。ここから、北に向かうと千住大橋があり、橋を渡ると千住宿だが、現在は渡ったすぐの場所に、東京都中央市場足立市場がある。この付近は多くの問屋が並んでいて、特に青物市場は江戸三大市場として「やっちゃば」と呼ばれていた。現在は、当時の名残の建物はないが、旧日光街道沿いに昔の商売の看板が掲示され、当時を偲ばせている。

「やっちゃば」を少し過ぎ「墨堤通り」を超えて次の交差点の左側に「足立産業芸術プラザ」がある。ここは「東京芸術センター」「足立産業センター」の併用施設の総称で公民のパートナーシップで産業と芸術の拠点として作られた。ここには芸

仲原正治

の

まちある記

術系として「天空劇場(400席)」「ブルースタジオ(220席の映画館)」のほか、演劇の練習場などの文化芸術施設、ハローワーク、創業支援館「かがやき」などの産業系が同居している。



1927年竣工の千住大橋。昔、悪いことをするとお前は千住大橋の橋の下に捨てられていたと親から言われた  
撮影：2012年5月27日



昔の千住大橋の図  
「大橋際の御上り場に將軍の御成船が着くようす」  
撮影：2012年5月27日



旧足立区庁舎の跡地に建てられた足立産業芸術プラザ  
撮影：2012年5月27日



横山家住宅  
撮影：2012年5月27日



名倉医院(江戸時代から有名な整骨院。名倉医院があるためか、千住近辺には整骨院が数多くある  
撮影：2012年5月27日



左：「やっちゃんば」の由来の看板 右：昔の店があったことの表示看板(いくつもの建物に掲げられているがこの付近には昔の名残の建物は無い)(撮影：2012年5月27日)

千住は宿場町だったので数多くの寺がある。足立産業芸術プラザの裏にも寺が二つ並んでいるが、千住でもっとも古いお寺である勝専寺(赤門寺・1260年開祖)は、塀が赤煉瓦で作られていて、本堂(1903年竣工)も赤煉瓦建造物になっている。宿場町通り(サンロード商店街)には「横山家住宅」(江戸後期)などもあるが、小さいころよく食べた「槍かけだんご」の「かどや」が有名だ。荒川の手前には整骨で有名な「名倉医院」があり、そこを過ぎるとすぐに河川敷で、ジョギングやサイクリング、スポーツ施設に活用されていて、休日には多くの人でにぎわう。



左：勝専寺 右：勝専寺の赤煉瓦の塀 (撮影：2012年5月27日)

### 交通の一大ターミナルになった北千住

江戸時代の日光街道、奥州街道の第一宿「千住宿」として栄えてきた千住は、水戸



旧日光街道の足立市場近くにある芭蕉の像  
撮影：2012年5月27日



荒川に架かる鉄道の4本の陸橋  
撮影：2012年5月27日



マルイの入居する駅前再開発ビル（駅からはペデストリアンデッキで結ばれている）  
撮影：2012年5月27日

街道の起点でもあり、松尾芭蕉が「奥の細道」に向かうにあたり、見送りの門弟たちとの別れを『行春や鳥啼魚の目は泪（ゆくはるや とりなきうおの めはなみだ）』と詠んだのは有名である。また青物では練馬大根や尾久のゴボウとならんで千住ネギは有名だった。

宿だけではなく、「岡場所」といわれる盛り場としても繁栄してきた。明治になっても売春宿が多く残り、宿娼伎（売春婦）が400人近く存在していたという記録がある。1871年には千住黴毒院（せんじゅばいどくいん）が開設され、梅毒の検査が定期的に行われていた。

その後、隅田川の水利を生かして、官営千住製鉄所・隅田川（貨物）駅・千住火力発電所なども置かれ、昭和20年代までは青物や川魚の市場が立っていた。

水運や街道は古くから発達してきたが、鉄道は1896年（明治29年）12月に日本鉄道（後に買収され国鉄）が田端―土浦間に開設し、田端の次に南千住、北千住と駅ができたのが始まりだ。常磐線は、日清戦争などもあり、富国強兵政策の中で国力を上げていくために石炭が必要で常磐炭鉱の石炭を運ぶ鉄道が必要となり敷設された。その後、旅客のために三河島―上野間が建設され、田端―隅田川駅間は貨物専用になった。

一方、常磐線に遅れること3年。1899年に東武伊勢崎線の最初の北千住―久喜間が開設し、北は1910年に伊勢崎、1929年に日光まで、南は1902年に浅草（現業平橋）1931年には浅草雷門（現浅草）までの幹線が全線開通している。

その後、1961年3月に仲御徒町―南千住間で開業していた地下鉄日比谷線が北千住まで延伸し、東武伊勢崎線と相互乗り入れを始め、1964年には日比谷線（中目黒―北千住間）が全線開業し、東急東横線との相互乗り入れも開始されている。

もう一つの地下鉄千代田線（代々木上原―綾瀬）は1969年に北千住―大手町間が開業し、北千住は4本の鉄道が乗り入れるターミナル駅になった。

北千住駅は常磐線、東武伊勢崎線の時代は平面駅で大踏切などが近くにあったが、日比谷線の乗り入れ時に橋上駅が設置された。その後1985年に駅ビル「ウイズ」（現在のルミネ）が建設され、橋上駅は廃止された。

2005年8月、つくばエクスプレス（秋葉原―つくば間）が誕生し、北千住駅は5つの線路が結ぶ一大ターミナルになり、現在約60万人の乗降客がある。

西口駅前には再開発され、現在、マルイがキーテナントとして入居している千住ミルディスI番館の上部にはTHEATRE1010（シアター・せんじゅ・701席）があり、商業・文化の拠点として賑わっている。千住ミルディスII番館は業務・住宅となっているが、昔この場所には赤煉瓦の蔵があり、そうした町の特徴がすべて再開発で跡形も残っていないのは寂しい思いがした。

西口に比べて、東口は昔ながらの旭町商店街が残っているが、駅前にあった日本専

仲原正治

の

まちある記

売会社の社宅跡地が今は、東京電機大学になっている。東口地域は普通の住宅が並んでいるが、少し歩くと荒川があり、この地域は海拔ゼロメートルで荒川の土手(堤防)で守られていることになる。

左：北千住駅前地図(東口すぐに東京電機大学が移転してきた)  
2012年5月27日  
右：冊子「銭湯といえば足立」第41号(8P：無料配布)



千住元町にある「タカラ湯」  
この近辺にはニコニコ湯、金の湯、大黒湯の4つの銭湯がある  
撮影：2012年6月7日



宮造りの入り口が美しい「大黒湯」  
撮影：2012年6月7日



千住緑町にある「緑湯」撮影：2012年6月7日

## 足立といえば銭湯

子供のころ神輿を担ぐと、「銭湯券」をもらえ、みんなで一緒に銭湯に行くことが祭りの楽しみの一つであった。高度成長により、アパートや一戸建ての住宅に風呂が完備されてから、銭湯は毎年のように減っていき、都心ではほとんど見なくなってきた。代わってサウナやスーパー銭湯のように、ビデオ鑑賞などの娯楽や仮眠できる銭湯が主流を占めてきた。

しかし、なぜか足立区にはいまだ52軒の銭湯が残っている。千住地域でも11軒の銭湯があり、銭湯生活を楽しむ人が健在である。銭湯では人前で裸をさらすスキンシップがあり、誰もが風呂の中では同じ立場で話ができたと感じる。家族で来て、親子で背中を流しあうなど、温かく開放的な雰囲気がいつも充満していた。また、湯船に入る前の掛け湯や浴室から出る前に身体を拭くなどの基本的なマナーを教わり、違反すると他人の子供でも叱るのは当たり前という風潮があった。子供のころには刺青を入れた人も何人か一緒に入っており、祭りの後ではそれが恰好良くもあり、ある時は怖くもあったことを記憶している。現在、「刺青及び暴力団関係者の入浴はお断り」という銭湯がほとんどで、刺青=暴力団と思われるが、当時、刺青は一つの文化であり、今のように全面的な否定されていなかった。銭湯は社交場であり、コミュニケーションの場であったのだが、昨今は、家に風呂があるが一人しか入れないため、親子のスキンシップも乏しく、パソコンによるコミュニケーションの発達で、会話もなかなかできないという現実はある。足立区では「銭湯といえば足立」という雑誌も発行されており、もう40号を超え

仲原正治

の

まちある記



旧千寿小学校を活用した東京芸術大学千住キャンパス（音楽環境創造科など）  
撮影：2012年5月27日



区立第二中学校を再利用した東京未来大学（堀切駅前）  
撮影：2012年6月7日



旧千住火力発電所敷地（旧日本宿小学校となっていた）を利用した帝京科学大学  
撮影：2012年6月7日



旧日本専売公社（現日本たばこ産業株式会社）の社宅地を活用した東京電機大学  
撮影：2012年5月27日



午前8時半ころ、北千住駅から東京電機大学方面に向かう学生群  
撮影：2012年6月7日

ている。なぜ、足立区に銭湯が今も多く残っているのかは、はっきりしたことはわからない。昔は住宅が密集していて風呂のある家が少なかったのだと思うが、現在はほとんどの家に風呂がある中で、銭湯を成り立たせる利用客がいるのは不思議だ。ちょっと寂しいことは、昔は「朝寝朝酒朝湯が大好きで・・・」と謡われたように、朝湯が楽しみのひとつとなっていたが、現在の銭湯の営業時間は15時以降で24時頃までの営業のため、筆者が訪ねた時間は入浴ができなかった。

## 大学を誘致し、まちに活力を

東京の中心部から大学が郊外に移転して久しい。バブル経済の時期に御茶ノ水近辺の大学は、敷地が狭くなったこともあり、八王子などの郊外に移転した。しかし、現在、郊外に移転してしまったことによる弊害が問題になっている。御茶ノ水近辺に大学がたくさんあった頃は、いろいろな大学の学生によって様々な情報が行き交っていた。しかし、郊外に移転すると、通う大学以外に付近に大学はなく、孤立してしまい、大学近辺のアパートと大学を往来するだけで、都心には出てくるのが少なくなる。教員も都心から2時間近くかかる大学に通い、情報を得るために都心に戻るなど時間の無駄が多くなった。

美術系大学の学生にとっては、感性を磨くためには優れた美術品の鑑賞が不可欠だが、美術館やギャラリーが都心にあるため、鑑賞する機会が減少する。電車賃もかかるためなかなか都心に出にくく、パソコン情報だけに頼る学生も多くなっている。また、卒業制作展を開催しても、郊外のキャンパスまで見に来てくれる人は関係者や家族で、一般の人は少ないため、モチベーションもあがらない。そのため、横浜や東京の都心部で卒業展を開くことも多くなっている。

少子化により学生が集まりにくいという現状で、大学は生き残りをかけて様々な取り組みをしているが、郊外に展開する大学にとっては死活問題であり大学のサテライトを都心に設ける大学も多い。

こうした中で、足立区千住近辺には、1993年の放送大学の開設以来、東京芸術大学（2006年）、東京未来大学（2007年）、帝京科学大学（2010年）、と新たに大学が移転をしてきて、2012年4月には東京電機大学が北千住駅前の一等地に移転してきた。郊外ではなく、交通の要所となっている千住であるため、学生も住みやすく通いやすい場所になっている。地域にとっては、大学との連携により、大学のノウハウを地域に還元してもらう機会が増え、様々な事業を進めることができるメリットがある。現在、芸大生と商店街の協力による「まちぐるみアート活動」なども行われるなど地域活性化に向けた取り組みが進んでいる。

5大学の誘致により、大学生を含む学校関係者は1万人を超えている。実際、人口は平成21年1月の635,080人から23年1月には644,448人と増加している。今

仲原正治

の

まちある記

年開設された東京電機大学は5,000人を超える学生数なので、今後も千住近辺の人口は若い人中心に増えることが予想される。

### 千住は住みやすく、情緒があるコンパクトな街だ。

千住の街を歩くと、いたるところに商店街がある。北千住東口からは千住旭町商店街が伸びている。西口は駅前から西へ延びる北千住駅西口美観商店街（通称：きたろ一ど1010）を中心に、右に左に20以上の商店街があり、露地かと思う場所も商店街となっている。小さな商店街には、昔ながらの畳屋、豆腐屋、寿司屋などがある。昨今、大型スーパーや専門店に押されて、小売店が減っているが、多くの商店街が千住で生き残っている理由は、銭湯が多く残っていることと共通点があるのかもしれない。どちらも情緒が感じられる。

宿場町通り（サンロード商店街）には、おやすみ処「千住 街の駅」があり、千住宿の案内をしてくれる。この通り付近には、家族連れで楽しめる飲食店も多いが、駅に向かって右側の路地の「ときわ通り商店街」は飲み屋さんが連なっていて、夜はサラリーマンや学生でにぎわっている。

住みたい町・住みやすい町のランキングが様々な機関から発表されており、吉祥寺や横浜、下北沢、自由ヶ丘などがいつも上位にランキングされ、下町は低かった。しかし、最近、浅草や北千住が10位代になるなどランキングが上がってきている。インターネットで調べたらオウチーノ総研の「ひとり暮らしの働く女性が住みやすい街」のランキングで北千住は堂々の1位となっていることを見つけた。「便利さ」「娯楽」「美容・健康」「安全」「家賃」の5つの指標で評価したものだが、今回、歩いてみて、千住は、住宅地も静かで商店街が近くにあり便利である。銭湯も多く情緒豊か。文化施設も多く、鉄道は5本入り、上野や浅草にも近く交通の便が抜群に良い。現在の宿場町的な賑やかさを備えたコンパクトな街で、楽しく住みやすく、これからも発展していくに違いない。



昔からある宿場町通り  
撮影：2012年5月27日



おやすみ処「千住 街の駅」  
は町の案内所だ。  
撮影：2012年5月27日



こうした商店街が20以上ある  
撮影：2012年6月7日



夜になると飲食街で賑わう  
「ときわ通り商店街」  
撮影：2012年5月27日

### 3) **今も昔も変わらぬ魅力**—浅草



浅草寺「風雷神門」(通称「雷門」)には外国人も含め多くの観光客が訪れる。1960年に鉄筋コンクリート造で再建された。  
撮影：2012年11月30日



「雷門」の大提灯に「松下電器」の文字があり、松下幸之助が寄進したことを物語る。  
撮影：2012年11月30日



ホテルニューオータニの創業者大谷米太郎の寄進を受けて鉄筋コンクリートで再建された宝蔵門  
撮影：2012年11月30日



宝蔵門の門裏の両側の巨大なワラジは魔除けの意味を持つといわれ、現在のものは2010年に奉納された(1941年の初回以降7回目)  
撮影：2012年11月30日

浅草は、不思議な町だ。江戸時代から盛り場として賑わい、その後も没落することもなく、現在まで繁栄し続け、多くの観光客が訪れる場所になっている。外国人にとっても、京都の静かで美しい寺社とは違った日本の魅力を感じる場所であり、日本人も、ここを訪れると、何か懐かしい心持ちがする。昨年には隅田川を挟んで対岸に新しく「東京スカイツリー」も誕生。浅草の魅力とその理由を探ってみる。

#### 浅草と言えば浅草寺

浅草と言えば「浅草寺(せんそうじ)」、門前町として栄えてきた。起源は7世紀に遡り、645年に勝海上人が観音堂を立て、聖観世音菩薩像を納めた。その後9世紀に比叡山(天台宗)から来た慈覚大師円仁が開山したと言われている。鎌倉時代には源頼朝が参詣し平家討伐の戦勝を祈り、鶴岡八幡造営に際して浅草から宮大工を招聘したといわれている。徳川時代、家康は浅草寺を祈願所として定め、秀忠は1618年に家康を祀る「東照宮」を造営した。

浅草寺に来た人は、まず総門である「雷門」をくぐることになる。正式には「風雷神門」という。左に雷神、右に風神が祀られている。「風雷神門」は10世紀に作られていたが1865年の大火で焼失し、95年後の1960年に再建された。寄進者は松下電器の生みの親、松下幸之助である。

雷門を抜けると宝蔵門があるが、当初は仁王門と呼ばれていた。これは東京大空襲で焼失し、1964年にホテルニューオータニの創業者大谷米太郎の寄進を受けて再建された。門の左右に金剛力士(仁王)像が安置されている。門裏には長さ4.5mの巨大なワラジが掲げられているが、仁王像(吽形=うんぎょう)の作者、村岡久作の故郷山形県村山市の奉賛会からの寄進である。

浅草寺本堂は観音堂と呼ばれ本尊が安置されていて多くの参拝者が訪れる。本堂は何回か焼失し、1649年に徳川家光により再建されたものが残っていたが、1945年3月10日の東京大空襲で焼失し、現在の建物は1958年に鉄筋コンクリート造で再建されている。

間口約35m奥行約33m高さ約30mの本堂には、川端龍子の「龍之図」、天井に堂本印象の「天人散華之図」があり、内陣中央の宮殿には秘仏本尊があるが公開はされない。

五重塔は増上寺、寛永寺、天王寺とともに江戸の四塔で、これも東京大空襲で焼失。現在のものは1973年に再建された。浅草寺には小堀遠州が作庭した「回遊式庭園」を持つ伝法院、弁天堂などもあるが二天門などを除き大半は東京大空襲で焼失した

仲原正治

の

まちある記

後に再建されたものである。



浅草寺本堂には、多くの観光客が無病息災を祈って訪れる。  
撮影：2013年4月1日



宝蔵門の左手に再建された五重塔(鉄筋コンクリート造)は地上からの高さは約53m。最上階の5階にはスリランカ伝来の仏舎利が納められている。  
撮影：2012年11月30日



朝倉文夫作「慈雲の泉」(1965年)。境内を歩くと、彫刻や記念碑を多く見ることができ楽しめる。  
撮影：2012年11月30日



本堂の裏側にある九代目市川團十郎の歌舞伎十八番「暫」の銅像。(大正8年に近代彫塑の先駆者新海竹太郎の作ったものは昭和19年に金属供出で撤去。昭和61年に復元)  
撮影：2013年4月1日



浅草寺境内案内図(撮影：2012年11月30日)

## 浅草の隆盛時代

「将軍様のお膝元」として発達した江戸の浅草寺は参拝者が多く、周辺は江戸随一の盛り場となっていた。寺の周辺には、娯楽遊行の場として大道芸などの見世物や芝居小屋が立ち、水茶屋、矢場なども立ち並んだ。栄えた要因のひとつに、遊郭が近くに移ってきたことがあげられる。1617年に現在の日本橋人形町付近に江戸吉原遊郭の開設が許可された。海岸に近く葦の繁った場所だったため、吉(葦)原と命名された。その後、市街地が急激に拡大し、大名の江戸屋敷が多く造られ、吉原付近も市街化されてきたため、幕府は吉原に移転を命じた。1657年に死者10万人といわれる明暦の大火(振袖火事)が江戸の街を襲い、その後、吉原は浅草北部の日本堤に移り、新吉原として幕末まで栄えることになる。

明治時代になっても、浅草界限は大人の遊び場として栄えてきた。1885年には「花やしき」が開園、仲見世は煉瓦づくりの2階建てになって開業。その後、新しく造成された場所(六区)は興行街として常盤座、人造富士山や水族館などができ、1890年には凌雲閣(十二階)、1903年に日本最初の活動写真常設館が六区にでき、翌1904

仲原正治

の

まちある記



1927年当時の雰囲気が残る  
東京メトロ銀座線浅草駅改  
札口  
撮影：2012年11月30日



「デンキブラン」で有名な神  
谷パーは1921年に現在の建  
物になり、90年以上の歴史を  
誇る。  
撮影：2013年4月1日



かつて「新世界」があった場  
所に移転した地上6階・地下  
2階の現在のウインズ浅草  
は、雰囲気も一新して、明る  
い雰囲気になっている。  
撮影：2013年4月1日

年には浅草橋—雷門、浅草—上野間に市電が開通。1912年には浅草国技館ができる。しかし、1923年の関東大震災で浅草区の96%の世帯が罹災し、象徴だった凌雲閣、国技館は崩壊した。震災後の復興は早く、翌年の1924年には仲見世が復活し、1927年には東洋初の地下鉄「浅草—上野間」も開通している。

近代の浅草が最も栄えていたのは震災前後ではないかと思われる。浅草寺への参拝者は後を絶たず、活動写真や浅草オペラなどのモダンな要素や江戸から続く見世物小屋的な雰囲気、新吉原などの遊郭、様々なジャンルの娯楽が混在した時代だった。

1945年の東京大空襲では浅草も大きな被害を受けた。浅草寺の本堂をはじめ、仁王門、五重塔は焼失し、周辺の家屋もほとんどが焼失した。戦後は露店が立ち並び闇市化した。すぐに興行街に映画館が復活し、47年には花やしきが営業を再開、48年に三社祭、朝顔市、両国の花火が復活し、急速に賑わいを取り戻す。

戦後は、浅草松竹演芸場(1944-1983)を中心に「デンスケ劇団」などによる喜劇の全盛期を迎え、女剣劇の浅香光代、漫才の内海桂子・好江、コロムビアトップ・ライトなど多くの喜劇人を排出している。また、「浅草フランス座」では渥美清、萩本欣一やビートたけしがストリップ劇場の前座を行いながら芸に磨きをかけてきたことは有名だ。

しかし、1950年に場外馬券売り場ができ、周辺に競馬新聞と赤鉛筆を持つ人たちが多くなり、ギャンブル好きのたまり場になってくる。映画がテレビに代われ映画館が寂れ、56年に売春防止法が成立、58年に赤線が廃止されて遊郭もなくなる。遊郭付近は連れ込み宿や個室付特殊浴場(当時は「トルコ風呂」と呼ばれていた)が中心となり、客引きが横行し、一般人が楽しく遊ぶというイメージではなくなっていく。1958年に浅草寺の本堂が、その2年後に雷門が復興し、観光客が増えてくる。しかし、東京が拡大するにつれて、人の流れは山の手の新宿、渋谷、池袋に移り、それに対応するように1980年代前後には浅草は「汚い、暗い、怖い」と言われるほど、街は荒廃していった。

## 浅草の「おかみさん」が立ち上がる

こうした中で、敏感に危機を感じたのがおかみさんたちだった。1968年に「浅草おかみさん会」が組織されていたが、2代目会長の「手打ちそば十和田」の富永照子さんを中心に浅草を取り戻す動きが始まる。街の案内地図の設置、保育園の開設など、地道にまちづくりを進めながら、81年には商店連合会と一緒に内山榮一区长と伴淳三郎の発案した「浅草サンバカーニバル」を実施する。また、2階建てバスの導入を先駆けて進め、88年には第1回「浅草・ニューオリンズ・ジャズフェスティバル」、93年には「浅草おかみさん会」を協同組合に組織替えし、第1回「全国商店街おかみさん会交流サミット」を開催。全国ネットワークを立ち上げる

仲原正治

の

まちある記

などして、まちの活性化に取り組んだ。

こうした動きに呼応するように内山区長は下町の賑わいを復活させるため 1985 年「下町ライブ計画」をスタートさせた。台東区には浅草の他に上野、谷中、根岸など独特な歴史と文化をもった地域があり、その魅力を発信しようという試みだ。しかし、関東大震災前後の活気は時代が生み出した爆発的なエネルギーがもとになっており、現在のように価値観が多様化した時代には、行動を起こしてもすぐにコトが進むわけではなかった。地域と行政が一体となって地域の魅力を発掘し発信すること続け、近年ようやく成果をあげはじめ、他の魅力ある地域にもスポットが当たるようになってきている。

浅草の人達は、独自のイベントを立ち上げるだけでなく、浅草で何かしようとする若者を積極的に応援している。横浜国立大学で教鞭をとっていた唐十郎氏と一緒に活動してきた演劇集団「唐ゼミ」が花やしきの駐車場で行うテント公演の際には、地域をあげて応援するなど、若い人を育てる姿勢は素晴らしい。



「協同組合浅草おかみさん会」発行の「おかみさん」には、浅草のイベント、歴史、人物、美味しいところなど浅草情報が満載されている（定価 500 円）



「台東瓦版 vol.2」には台東区の夏の特集が組まれている。（台東瓦版より）



「台東瓦版」は年 3 回程度発行されており、浅草文化観光センターで手に入れることができる。（無料）



左：花やしきの駐車場に設置された唐ゼミの公演テント。（写真：唐ゼミ）

右：唐ゼミ第 22 回公演『夜叉綺想（やしやしきそう）』公演風景（写真：唐ゼミ）

## 中心ターミナルにならなかった浅草

日本最初の地下鉄が上野－浅草間にできたのだから、当時の浅草は相当賑わっていたはずだ。しかし、交通体系はその後、大きな進展がみられない。浅草には現在、東武伊勢崎線、東京メトロ銀座線、都営浅草線、つくばエクスプレスの 4 本の鉄道の駅がある。横浜からは、京浜急行が都営地下鉄に直結し乗り換えなしで、浅草まで行くことができる。東京駅からは上野まで山手線で行き、銀座線に乗り換えるか、秋葉原からつくばエクスプレスに乗る必要がある。東武線は日光、東武公園方面の始発・終点駅で、乗り換えないと銀座や上野には行くことができない。JR線は浅草から離れている。銀座線と都営浅草線の浅草駅は近いので、すぐに乗り換えられるが、つくばエクスプレスの浅草駅は 600m ほど離れている。鉄道は浅草をターミナルとして意識して敷設されていない。

仲原正治

の

まちある記

こうした構造は、東京駅ができ、東北方面の拠点が上野駅になり、浅草がその軸から外れたからではないかと思われる。それでも栄えていた浅草を考慮し、日本最初の地下鉄は浅草を通したのではないだろうか。江戸時代から明治初期までは船運が中心だったため、繁華街としての町の構造は良かったのだろうが、今の交通体系を見ると、全体としてチグハグな感じは否めない。

東武線浅草駅と一体の松屋浅草には、「EKIMISE（駅見世）」が昨年誕生したが、ターミナル駅のように大きくなく、乗換え客や地元の人が中心で、集客はあまり期待できない。



1931年竣工の東武鉄道浅草駅はスカイツリーの開業に合わせて、外観を元の姿に復元し、格調高くなった  
撮影：2013年4月1日



2012年11月にオープンした「EKIMISE」の地下入口は駅と地下通路で繋がっている。地下総菜売り場は夕方にも係らず、客は少なく感じた。  
撮影：2013年4月1日



金色に輝くアサヒビール本社の先にスカイツリーを見ることができる  
撮影：2013年4月1日



浅草寺から徒歩10分ほどの吉原神社には浅草七福神の弁財天が祀られている  
撮影：2013年4月1日



浅草近辺の案内地図。線路と駅が分散していることがわかる。(撮影：2013年4月1日)

## 浅草の周辺散策

地下鉄浅草駅を降りて、隅田川方向を見ると、アサヒビール本社と屋上のフィリップ・スタルクのモニュメントの先に東京スカイツリーが見える。この風景はランドマークとなっており、カメラを持っている人は必ず撮影している。雷門の前も外国人をはじめとする多くの人々の撮影ポイントとなっている。春休みだったので、子供連れも多く、仲見世も浅草寺境内も昼から賑わっている。

浅草寺境内を通り過ぎて千束に足を踏み入ると人出は少なくなってくる。千束地域にある吉原神社は1875年(明治8年)に吉原遊郭の四隅の守護神として祀られていた4つの稲荷と遊郭以前から存在した玄德稲荷を合祀したもので、関東大震災後に現在の場所に移転してきた。吉原神社近くの吉原弁財天には、関東大震災で火の

仲原正治

の

まちある記

海に包まれ、逃げ遅れ弁天池に飛び込み溺死した 490 人の遊女の供養の吉原観音像が祀られている。



吉原弁財天には、吉原観音像の他、新吉原の由来などが書かれた石碑もある。

撮影：2013年4月1日



490人の犠牲者を供養した吉原観音像。

撮影：2013年4月1日



弁財天の境内に掲示されていた当時の地図（撮影：2013年4月1日）



現在の吉原地区の昼間は、歩いている人も少ない。

撮影：2013年4月1日



地域で見つけた「全日本特殊浴場協会連合会」の事務所  
撮影：2013年4月1日

左：かっぱ橋道具街には、厨房器具の店が軒を連ね、多くの外国人が訪ねてくる。  
撮影：2013年4月1日

右：食品サンプルは若者中心に人気があり、見ているだけで楽しい。  
撮影：2013年4月1日

旧赤線地帯だった吉原の現在は、ファッションヘルスやラブホテル街となっていて、屋でも客引きが店の前に立っている。地域には「全日本特殊浴場協会連合会」の事務所もある。ただ、新宿や横浜などと比べると規模も小さく、店も少ないように見受けられる。

浅草からすぐ西側にある「かっぱ橋道具街」には、厨房関係器具の店が170店舗ほど軒を連ねている。主に、プロの飲食店の人が買いに来る問屋街として発達し、調理、厨房器具ならば何でも揃う日本一の道具街である。

かっぱ橋の由来は、1800年ころに合羽屋喜八が湿地だった新堀川の整備を行ったことから名付けられた。大正時代の初めに道具屋や骨董屋が店を出しはじめ、大正10年(1921年)にはかっぱ橋通りに市電が開通し、道具街が拡大していった。現在は小売りも行っており、食品サンプルの店には多くの若者、外国人観光客が来て、たくさんの商品を買っている姿を見かける。どの店を訪ねても新しい発見があり、この街の探索は飽きない。



仲原正治

の

まちある記

## 浅草の商店街を歩く

浅草の商店街は雷門から浅草寺に続く仲見世通りを中心に、仲見世に平行に、メトロ通り、オレンジ通り、六区ブロードウェイ、直角に新仲見世通り、伝法院通りと店が連なっている。仲見世は春休みだったこともあり、外国人観光客も含めて多くの観光客が訪れている。

アーケードの新仲見世通りは人出も多く、昔からの商店と新しい商店が混在しているが、魅力が乏しく感じられた。ブロマイドの専門店「マルベニ堂」は懐かしい。六区ブロードウェイは、ウインズ浅草(場外馬券売り場)やロック座(ストリップ劇場)、浅草フランス座東洋館(通称フランス座)、浅草演芸ホールなど、大人の楽しめる施設が並んでいる。浅草演芸ホールは落語を中心に、東洋館は、いろもの専門劇場として人気の漫才コンビ「ナイツ」がよく出演している。現在、いくつかの再開発が進んでおり、2014年末には阪急阪神東宝グループの「まるごとっぽんプロジェクト」の新しい施設が完成している。

浅草には様々な路地や商店街があり、それが少しずつ特徴を備えており、どこの路地に入っても楽しい。スカイツリーはどこからでも見ることができるが、スカイツリー誕生の経済効果については、聞く人によってまちまちだった。少し良くなったという店もあれば、全然変わらない、むしろ、スカイツリーに登って、浅草に寄らずに他の場所に行くツアーができ、減っているのではという意見もあった。浅草に来たら、雷門前の「浅草文化観光センター」で情報を得るのが良い。インフォメーションで尋ねれば、大抵のことは教えてくれ、4か国語の案内パンフも用意されている。旅行団体の支援スペースや台東区のみどころ、イベント、歴史、文化などを紹介する展示スペースもある。8階には展望テラスがあり、浅草のまちやスカイツリーが一望できる。今回歩いてみて、一番気に入った場所だ。



春休みで賑わう仲見世には土産店が軒を連ねている。  
撮影：2013年4月1日



伝法院通りには、衣類関係の店が多い。  
撮影：2012年11月30日



新仲見世通りのマルベニ堂には、往年のスターのブロマイドが処狭まじと並ぶ  
撮影：2013年4月1日



「浅草文化観光センター」には多くの観光客が訪れる。  
撮影：2013年4月1日

左：現在の浅草案内図も地元商店連合会が中心になって作っている。  
撮影：2012年11月30日



仲原正治

の

まちある記

左：「浅草文化観光センター」の8階展望テラスからは、雷門を入り、仲見世から浅草寺までの参道を上から見る事ができる。  
撮影：2013年4月1日



浅草の年中行事が書かれている看板。これ以外にも様々な催しが開催されている。  
撮影：2012年11月30日



浅草寺の二天門近くの「松邑」は東京大空襲で焼け、戦後の区画整理で現在の場所に移ってきた。  
撮影：2013年4月1日

## 浅草のこれからはどうなる

浅草は、江戸時代から様々な災害に見舞われ、それでもたくましく街を復活させてきた。徳川家康が祈願所にして以来、幾度かの大火に見舞われながらも、江戸で最も繁華な町として栄えてきた。年中行事も初詣から始まり、七福神めぐり、隅田川の花火、三社祭、ほおずき市、酉の市など、現在も受け継がれているものが多い。遊郭の誕生で賑わい、明治になり、花やしきの誕生、震災と戦災による街の壊滅、売春防止法による遊郭の廃止、近年の繁華街の東京の西部地区への移動、近隣に東京スカイツリーの誕生、そのたびに、まちの人達が、その時代に合った職業や施設を作って、少しずつ変化させていった。他の街では超高層や巨大な建物ができて、浅草の中心部はあまり変えずに、来訪者へのおもてなしを忘れずに普段通りの商売をしてきた。その時代に合った商売をして時代を乗り切っていく人、先代の積み重ねてきた商売を続けている人がうまく混在して、浅草の魅力を作っている。

筆者が訪ねたお好み焼きの松邑（まつむら）は以前汁粉屋だったが、商売を変えて160年続いている。「手打ちそば十和田」も昔は和菓子屋だったのを蕎麦屋に変えたと聞いた。おかみの富永さんは77歳だが、今でも現役でしゃきしゃきと働いて、店を切り盛りしている。仕事の合間に、ニューオリンズに出かけ、ジャズ演奏家を連れてきたりしている。

仲原正治

の

まちある記

東京では、銀座や渋谷、六本木などで大規模開発の新しいビルができて注目されているが、2-3年経つと、マスコミでもあまり取り上げられなくなってしまふ。浅草は大規模な開発は必要がないし、昔からの雰囲気を残した方が持続する町として生き残り、今後も注目されるだろう。開発に取り残された町ではなく、これからも主体的に「取り残す町」でいて欲しい。



「浅草おかみさん会」の中心人物富永さんが経営するすしや通りにある「十和田」はいつも賑わっている。蕎麦と板わさが美味しい。(撮影：2013年4月1日)

仲原正治

の

まちある記

## 4) 奥深い町の悩み—下北沢

2013年3月16日、渋谷では、東急線が地下化し副都心線に繋がることで沸いたが、これに1週間遅れの3月23日、小田急線の下北沢駅が地下化して、開かずの踏切がなくなったという記事が掲載された。筆者は北沢小、北沢中学校出身で19歳の春まで北沢に住んでいたこともあり、どのように町が変わってきているのか、懐かしい場所も含めて訪ねてみた。

### 昭和時代以前は寒村だった下北沢

江戸時代以前の歴史書には、あまり登場しないが、北沢中学校脇から下北沢に至る道は、子どもの頃から鎌倉道と教えられてきた。「いざ鎌倉」という言葉に象徴されるように、関東地方には鎌倉へ続く道が多く存在し、これもその一本。その時代、道の周辺に集落があったのだらうと思っていたら、「新編武蔵風土記稿」によると、北沢地区は開墾以前、3軒の民家しかない田舎だったことがわかった。14世紀後半に、吉良治家が世田谷に居を構え、15世紀の後半には世田谷城主(現在の豪徳寺付近)の吉良頼康(よしやす)によって北沢八幡宮が作られ、少しずつ村が形成されていった。「武蔵田園簿」によると1650年ころは石高70石9斗余の旗本領で、1709年に天領に編入され、代官の支配下で明治まで続いてきた。1670年に玉川上水が拡張され上北沢村で分水され北沢用水ができると、常時、田畑に水が使えるようになったが、1826年頃でも民家数は80戸、それも北沢八幡宮周辺に集中していたので、下北沢駅あたりは荒地や森だったと思われる。1889年(明治22年)に下北沢、代田、池尻など8村が合併して世田谷村になり、その後、世田谷町に発展、1932年に東京市世田谷区に統合されている。(世田谷町、駒沢町、玉川村、松沢村の4町村の合併)

1925年から1年間、代沢小学校分教場に採用教員として働いていた坂口安吾は「風と光と二十の私と」の中で当時のことを次のように書いている。

「私が代用教員をしていたころは、世田谷の下北沢というところで、その頃は荏原郡と云い、まったくの武蔵野で、私が教員をやめてから小田急ができて、ひらけたので、そのころは竹藪だらけであった。・・・学校の横に学用品やパンやアメダマを売る店が一軒ある外は四方はただ広茫かぎりもない田園で、もとよりその頃はバスもない・・・その頃は学校の近所には農家すらなく、まったくただひろびろとした武蔵野で、一方に丘がづらなり、丘は竹藪と麦畑で、原始林もあった。・・・」

北沢が住宅地として開発されたのは小田急線の開通以降で、1923年の関東大震災を



現在の北沢中学校。1964年当時は木造校舎で、1学年9クラス、1クラス50余人だ。  
撮影：2013年6月10日



現在の鎌倉道には、下北沢付近に来ると商店があるが、そのほかは住宅地だ。  
撮影：2013年6月10日



北沢八幡宮は緑に囲まれ、周りは閑静な住宅地となっている。  
撮影：2013年7月2日



北沢用水跡は暗渠となり、現在は北沢川緑道として整備されている。  
撮影：2013年7月2日



大原交差点付近は排気ガス公害が問題となり、一酸化炭素の濃度などが表示されていた。  
(写真：北沢中学校 23 期生ホームページ、撮影：1960 年代後半)



当時、最新のロマンスカー（3000 型 SE 車）は新宿—小田原を 1 時間余で運転した。  
(写真：北沢中学校 23 期生ホームページ、撮影：1960 年代後半)



昭和 40 年代の下北沢駅  
(写真：北沢中学校 23 期生ホームページ、撮影：1960 年代後半)

契機に下町から山の手へと住宅開発が進み、鉄道沿線に住宅が次々に建設された。当時は、駅前広場を作らず、駅を中心に道路が作られ、宅地ができた。戦争中もほとんど戦災にあわなかったため、現在も、当時の路地的な市街地が形成されたままとなっている。筆者が小学生だった 1950 年代でも農地がぼつぼつと残っていたことを覚えているので、高度成長期に急速に開発が進んだと思われる。当時、近くにある環状 7 号線（環七）は信号機も少なく、横断歩道以外の場所でも自転車で横断できた。昭和 40 年代になると甲州街道と交わる大原交差点付近は、排気ガスによる高濃度の一酸化炭素や鉛による健康への影響が心配され、ぜんそくや呼吸障害などと二酸化炭素の因果関係が指摘されるなど、排気ガスによる大気汚染が大きな問題になった。

### 小田急線と井の頭線が交差する

関東大震災が起きた 1923 年に利光鶴松によって設立された小田原急行鉄道は、27 年（昭和 2 年）に小田原線（新宿—小田原間で開業半年目には全線複線になった）を開通させ、その時に、東北沢、下北沢の駅が作られた。29 年には江ノ島線（新原町田（現町田）—片瀬江ノ島）を開通させたが、このころから、沿線開発が進み、下北沢など、都会へのアクセスが良い場所に、住宅地ができてくることになる。井の頭線は帝都電鉄により 33 年に渋谷—井の頭公園間が開通し、翌 34 年に吉祥寺まで全線開通している。井の頭線と小田急線は下北沢駅で交差しているが、井の頭線の開通が遅かったため、地上部が小田急線、高架部が井の頭線となっていた。その後、40 年に帝都電鉄は小田原急行鉄道に吸収されている。

陸上交通事業調整法が 1938 年に成立し、鉄道、バス事業等が東京横浜電鉄、武蔵野鉄道、東武鉄道、京成電気軌道の 4 つの系列に統合され、42 年に小田原急行鉄道は京浜電気鉄道（現京浜急行電鉄）とともに東京急行電鉄に吸収合併され解散した。44 年には京王電気鉄道も東急に吸収されている。

戦後 3 年目の 1948 年、東急から分離したが、その時に井の頭線は京王帝都鉄道の所属となった。その後、小田急線は沿線開発や箱根登山線への乗り入れ（1950 年）などで乗降客を増やし、1959 年度の輸送人口は 1 億 6000 万人に達していた。（新宿駅の 1 日の乗降客は当時 19 万 3000 人、現在は約 50 万人）

子どもの頃に印象的だったのは、1957 年夏から運行を開始した新宿—小田原間を結ぶ「ロマンスカー」だ。その年の秋には国鉄の協力によって、大船—沼津間の走行実験で、当時の狭軌鉄道（幅 1,067mm）の世界記録（145km）を達成している。また、驚くべきことに、ロマンスカーは全区間オルゴールを鳴らしながら走っていた。夜、受験勉強をしているときに、オルゴールの音が聞こえてくると小田原からのロマンスカーが走っているのだなと思ったものだ。むろん今は騒音問題で、出発のときな

仲原正治

の

まちある記



東北沢駅は上下線とも急行待合せ駅であったため、朝夕のラッシュ時はいつも待機時間が長かった。(写真：北沢中学校 23 期生ホームページ、撮影：1960 年代後半)



東亜興業(株)が経営する下北沢オデオン座は洋画専門館だったが、その後ピンク専門館となり、閉鎖し、現在は跡地にスポーツ施設が建っている。(写真：北沢中学校 23 期生ホームページ、撮影：1980 年代)



鈴なり横丁には居酒屋などもあり、当初は鈴なり一番館(カフェシアター)もあった。(写真：北沢中学校 23 期生ホームページ、撮影：1980 年代)



現在の鈴なり横丁には「ザ・スズナリ」の他、シアター711も開館している。撮影：2013 年 7 月 2 日

どにしか鳴らしていない。

都市化が進むにつれて、小田急線はラッシュ時には身動きもとれない状況で、下北沢駅は階段が狭く乗り換え時に混雑も激しかった。東北沢は急行待機駅のため、何本もの急行に抜かれ、そのたびに踏切は閉じたままの状態が続いていた。

## 下北沢が演劇の街に

下北沢が若者たちの楽しめる場所、演劇や音楽の街と言われるようになったのは、1980 年代に入ってからだ。それ以前の下北沢は、交通の要所だが、基本的には住宅地で、近くに東大駒場があり、学生も多く、娯楽施設として下北沢オデオン座などいくつかの映画館がある程度だった。今でも鮮明に覚えているのは、中学校卒業間近の課外授業でオデオン座に行き、「風と共に去りぬ」を見ることができたことだ。レット・バトラー役のクラーク・ゲーブルの格好よさ、スカーレット・オハラ役のヴィヴィアン・リーの美しさに感動した。

下北沢オデオン座は 1952 年に開業し、長く地元には親しまれてきたが、その後、閉鎖され、その場所にはスポーツジムが建っている。

オデオン座のすぐ近くに、1981 年に演劇専用劇場「ザ・スズナリ」がオープンしたが、これが下北沢のイメージを変えることになる。戦後の演劇の世界は、歌舞伎や新劇が中心だった。1960 年代になると既成の劇場を飛び出した状況劇場(唐十郎)、天井棧敷(寺山修二)、早稲田小劇場(鈴木忠志)、黒テント(佐藤信)などの活動が盛んになり、アングラ演劇と言われ、前衛的であるがゆえに一部の層にしか理解が得られなかった状況だった。彼らの演劇は野外や「テント」での公演が多く、前衛、反体制、反新劇的であり、思想性も高く、それを支える層も、学生や知識人が多かった。これが小劇場演劇の奔りと言われている。

1980 年代になると、つかこうへいが「蒲田行進曲」などで「笑い」を取り入れた演劇活動を進め、若い層を取り込むようになり、如月小春(「NOISE」主宰、2000 年没)や野田秀樹(劇団夢の遊眠社)、鴻上尚史(第三舞台)などが台頭し、「小劇場」を中心に個性豊かな演劇を展開していくことになる。

80 年代になり小劇場演劇が普通に受け入れられる頃に、本多一夫は下北沢に「小劇場」を次々に開設させていった。映画俳優だった本多一夫は、当初は、バーや居酒屋を経営する実業家として成功していた。彼は、映画や演劇の世界が好きだったこともあり、「本多スタジオ」を作り俳優の養成を始め、1981 年に「ザ・スズナリ」(150-170 席)を作り、劇場経営の最初の一步とした。翌年には、マンション建設に併せて 386 席の「本多劇場」をオープンさせ、その後も 84 年に「駅前劇場(160 席)」、93 年に「OFF・OFF シアター(80 席)」、97 年に「劇」小劇場(130 席)」、2007 年に「小劇場楽園(70-90 席)」、2009 年に「シアター711(70-90 席)」を、横浜には 88

仲原正治

の

まちある記

左：下北沢に本田劇場系列は「劇」小劇場(130席)など、6か所ある。

中：劇場の前には6劇場の催し案内が掲示されている。

右：歩いているといろいろな場所でシアターや劇団関係の施設を見つけることができる。

撮影：2013年6月10日

年に相鉄本多劇場（184席）をオープンさせ、本多劇場グループとして、ゆるぎない地位を獲得するようになる。本多劇場ができてからは、小劇場から育った演劇人がテレビや映画に頻繁に登場し、多くの若者が下北沢を拠点に活動するようになり、下北沢と言えば「演劇の街」と言われるようになってくる。



下北沢一番街には、昔からの店と新しい店が共存している。毎年、2月にはしもきた天狗祭りが開催される。撮影：2013年7月2日



下北沢一番街には昔ながらの「おこし」の工場があり、小売りもしてくれる。一袋100円と格安のものもある。撮影：2013年6月10日

### 多くの商店街が共存する街

東京オリンピック(1964年)が開催された時期に中学生だった筆者は、下北沢駅近くに住む友人宅によく遊びに行ったが、商店街としては、駅前にバラック風の商店が並び、野菜などを売っていたことくらいしか覚えていない。狭いところにごちゃごちゃしているという印象だった。それ以外では、横浜銀行が印象に残っていて、どうして下北沢に横浜の銀行があるのかと疑問に思ったものだ。下北沢一番街は記憶に残っているが、それ以外の商店街が今のように発展したのは、高度成長期以降だと思われる。現在の下北沢には下北沢一番街、しもきた商店街、下北沢南口商店街、下北沢東会、下北沢南口ピュアロード(新栄商店街)、代沢通り共栄会とたくさんの商店街が共存している。戦後のヤミ市から発展した北口駅前食品市場は、駅前広場計画で相当数が取り壊され、かろうじて数件の店が残っている状況だ。

左：下北沢一番街付近の案内図

撮影：2013年6月10日



仲原正治

の

まちある記



一番街から横道に入ると、閑静な住宅地が続いている。  
撮影：2013年7月2日



一番街商店組合事務所は商店街の所有で、「世田谷まちステーション」として街の案内所兼お休み処となっている。  
撮影：2013年7月2日



南口商店街はチェーン店もたくさん進出していて、店の新陳代謝が激しい地域となっている。  
撮影：2013年6月10日



横浜銀行がある「しもきた商店街」は、道が入り組んでいて、初めて訪れると迷うことが多い。  
撮影：2013年6月10日

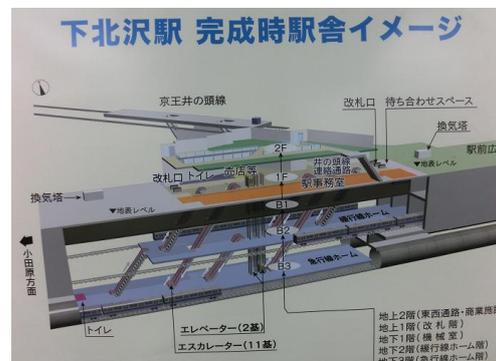
下北沢付近の地形は、丘のような形状になっていて、駅に向かう道沿いに商店街が形成されている。商店街から丘を上がるとそこは閑静な住宅地であり、駅前とはまったく違う顔をもっている。

世田谷区の人口は、20年前の1993年には762,630人で、2013年6月には865,671人と約10万人増加している。一方、北沢地区に限ると20年前には139,167人だったのが現在は144,666人と5千人程度が増えているだけである。北沢地区と言っても梅ヶ丘や桜上水なども含まれているので、下北沢付近の人口はあまり変わっていないと推測される。その理由は、住宅開発が難しいことが原因と考えられる。用途地域は、駅付近は商業地域、道路沿いは近隣商業地域になっているが、すぐ隣は第一種低層住居専用地域や第一種住居地域になり、用途制限や容積率等が低く、規制が厳しい地域である。また、商業地域や近隣商業地域は一つの敷地が狭いため高層住宅の開発がほとんど行われていない。居住人口があまり増えないこの地域で、これだけの商店街が成り立つということは、相当数の来訪者がある証ではないだろうか。

## 下北沢のまちづくり

現在、下北沢で大きな問題となっているのは、駅前広場と都市計画道路の建設計画だ。下北沢駅前には広場がなく、道幅もふつうの生活道路程度で、災害が起きた時に、消防車、救急車など緊急車両の通行が課題となっていた。

こうした中で、開かずの踏切問題で懸案となっていた小田急線の東北沢—下北沢—代田間の地下化計画の進捗に伴い、区が駅の周辺を開発して道路と広場を作ることを決めたために、2005年以降、地元との間で摩擦が起きている。



左：下北沢駅完成時駅舎イメージ図。複々線工事がまだ進められている。

(撮影：2013年6月10日)



右：地下3階まで下ることになるが、現在も工事中で、経路が非常にわかりにくい。

(撮影：2013年6月10日)



踏切がなくなり渋滞が解消した茶沢通りにある東北沢4号踏切付近。

撮影：2013年6月10日



井の頭線の下北沢1号踏切はそのままなので、踏切で5分程度待たされることもある。

撮影：2013年6月10日



道路計画予定地に掲載された世田谷区の掲示版

撮影：2013年7月2日

左：下北沢付近の地図と踏切の位置図（写真：仲原正治、撮影：2013年6月10日）

右：2005年に下北沢フォーラム実行委員会が作成した計画関係図。行政が作ったものよりもわかりやすい。

世田谷区は(東京都は)、2003年1月に「小田急線地下化(変更)」と「補助54号(高架を地上に変更)」「世区街10号線(駅前ロータリー)」の都市計画変更を行っている。これは昭和21年に決められた都市計画道路の変更と言う形で進められた。そして、2004年5月に「下北沢駅周辺地区街づくり計画」を発表している。目標としては「…個々の魅力的な商店街や劇場に代表される下北沢の文化が形成され、それらが住宅地と調和しながら発展してきている。小田急線の連続立体交差事業を契機に、街全体が持っている魅力を一層引き出し、さらに発展させ、下北沢の特徴や地域資源を活かした『生活と文化を育み、地域の“心”となる安全で住みよい賑わいの街』の実現を目指す。」としている。この街づくり計画の中の交通機能の整備の方針で「地域の生活を中心としての拠点性と利便性の向上を図るため、駅前広場(世区街10号線、補助54号線)を整備する。」と表明した。その後、区はこの内容の説明会を開催したが、一方で、自分の町の未来を一緒に考えるために商店主や専門家が中心になって、2005年に下北沢フォーラム実行委員会が立ち上った。



## 都市計画に対する疑問

下北沢の商店街を歩くと、ほとんど自動車が入って来ないことに気付く。一部、車両規制されているところもあるが、人が堂々と道の真ん中を歩いている。むろん商品の搬入などでは車が入ってくるが、通過する車がとても少ない。これで不自由がないのなら、200戸以上を立ち退かせて新しい道路を作ることが必要なのか疑問だ。補助54号線は、無謀にも密集地を幅15m~26mの規模で横断する形で計画されている。この道路を計画した人は本当にこれができるかと信じて作ったのだろうか。今回、小田急線の地下化という大事業が行われ、それに乗じて道路計画を作っているが、密集地を迂回して線路の上空を利用するなどの知恵があってしかるべきだ。



本多スタジオの隣接地は、道路用地としての買収が終わっているが、この手前の密集地の買収交渉は進んでいない。

撮影：2013年7月2日



自転車の違法駐車を取り締まる看板には、公営の駐輪場の場所が掲載されているが、みずほ銀行敷地を活用した暫定のもの以外は駅からは遠い。

撮影：2013年7月2日



みずほ銀行敷地を活用した暫定自転車置き場は、無料のためか、すごい数の自転車はみ出して置かれている。

撮影：2013年7月2日

左：区役所が発行している「小田急線上部利用通信NO.8」に掲載された上部利用計画案

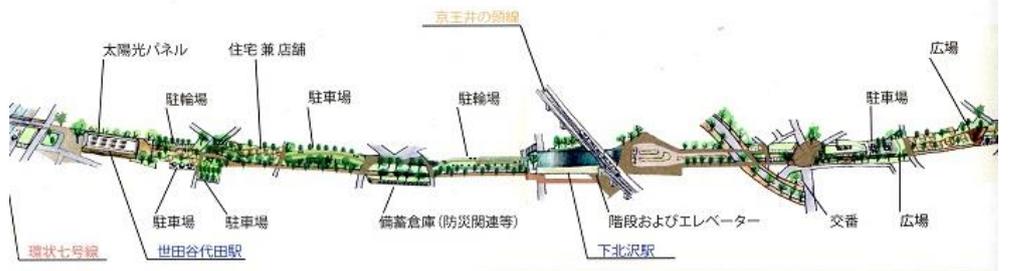
都市計画的にはあまりにも稚拙なもので、この計画は駅前広場を作るための方便ではないかと疑ってしまう。実際に、補助54号線の用地買収はあまり進んでおらず、駅前広場だけは北口の商店街を立ち退かせることで目途がたっているように思われる。

確かに下北沢駅周辺にはいくつかの改善の要素はある。ひとつは自転車対策だ。現在、公的な駐輪場は駅の近くにはない。みずほ銀行の敷地を利用している駐輪場、高層ビルの Recipe SHIMOKITA (レシピ シモキタ) の道路沿いの有料駐輪場とビルの裏側にある立体駐輪場くらいしか見かけなかった。みずほ銀行の駐輪場は駅のすぐそばで無料ということもあり、雑然と多くの自転車が止まっていて、出し入れするだけでも大変になっている。

こうした改善が必要な点はあるが、突然に提案された道路計画と駅前広場計画なので、住民や商店主は戸惑ったというのが当初の正直な反応だったのではないだろうか。行政は2005年以降、(2007年頃から)小田急線の上部利用についての利用計画を中心に、地元と話し合うことを行っているが、地域や専門家からは、この街をより良くしていくための施策として「グリーンライン」という緑の都市軸を提案している。ホームページでは「グリーン」とはそもそも自然、植物を意味しますが「緑=グリーン」の言葉が持つ広がりある理念を意味し、人と自然がつながり、人と人がつながるコミュニティを育む場となることを提案します。」とし、「安全・安心・防災に配慮した地域全体の連続性」「持続可能なまちを支えるエコロジカルパーク」など8つの理念を目指している。緑を増やし、豊かな人間らしい空間を作っていくことについては、誰もが望んでいることなので、こうした取り組みを通じて地域の中できちんとした議論が進み、コミュニティを育てていくことはとても大切だ。

線上部利用計画(区案)追加、修正の基本的な考え方(素案)【イメージ図】

、上部利用計画について世田谷区が区民の皆さんからのご意見を聞いて、昨年2月の区案の追加・修正に向けてまとめた基本的な考え方(素案)のイメージ図です。利用については、小田急電鉄株式会社及び東京都との協議の場で了解を得る必要があります。ら、その協議を始めるにあたり財政負担の検討等も必要となり、そのようなことから、このイメージ図は、これからの部分もあることをご理解ください。(下記の※参照)



仲原正治

の

まちある記



北口駅前食品市場は、駅前広場計画が着々と進み、空地になっている部分が多い。撮影：2013年6月10日

撮影：2013年7月2日



市場の中の半分以上の店はすでに店を閉じている。撮影：2013年6月10日



市場の中で開けている店には昔からのお馴染みの客が多い。

撮影：2013年6月10日



筆者が訪れた時に閉店のため内部を整理をしていた飲食店「川合」

撮影：2013年7月2日

## 下北沢を歩く

筆者が中学生時代から知っている下北沢一番街商店街は、昔ながらの看板建築や2階建ての町並みが続き、昔からここで商売をしてきた人と新しく店を構えた人がうまく調和している。一番街の脇道を少し上ると閑静な住宅地になっていて、町の喧騒はほとんど聞こえない。オフィスビルが見えないため、下北沢は商業と住宅だけだと思っていたら、一番街には、シェアオフィスもある。マンションが居住用だけでなく、事務所として使われている場合も多く、表面的には見えないが、多くのクリエイターたちが活動している。

北口駅前食品市場の建物は一部が壊されて金網で囲まれている。ここは駅前広場計画の用地だが、その区域に残っている古い建物では、まだ、いくつかの商店が営業を続けていて、戦後の闇市時代を思い起こさせる。

南口商店街は、チェーン店が多い中で、隠れ家的に2階にしゃれた本屋やライブハウスなどがあり、若者が楽しめる場所になっている。ただ、賃料が高いのか、突然閉店して違う店になることも多いと聞いた。

ミシュランが発行する外国人観光客向けのガイドブックには、下北沢に★がついた店が二つある。そのうちの一つで35年間続いている「NEVER NEVER LAND」に行くと、店内には、様々な楽器が置かれ、壁にはチラシが張られていて、ライブを目当てにした客が来ることが多い。こうしたライブハウスは下北沢に20近くあるが、どれもビルの2階以上にあって、見つけることが難しい。伝説のジャズクラブ「LADY JANE」は茶沢通りを三軒茶屋も方面に歩くと右側にあるので、見つけやすかった。スズナリ横丁の裏には、「洗礼者聖ヨハネ世田谷カトリック教会」があり、中庭に入ると、近くの喧騒も遠のき、美しい近代建築を見ることができる。少し歩くと北沢八幡宮や森厳寺、その先には北沢川緑道があり、緑豊かな空間がある。

下北沢駅付近の路地文化、そこには、居酒屋、ライブハウス、劇場など、様々な若者を引き付ける要素があるが、その反面、すぐ近くには閑静な住宅地が広がり、そのギャップが「下北沢」らしい姿だと言えるだろう。全国の中心市街地が疲弊してシャッター商店街が増えている中で、下北沢は自然発生的に町が広がり、若い人たちが楽しめるという特徴を備えた商業地だ。一方で、昔からの住民からは、もう少し落ち着いた街になって欲しいという意見も聞かれる。久しぶりに下北沢を訪ねてみて、「下北沢は奥が深い」という印象を持った。7月初旬には下北沢音楽祭も開催されている。自分の町を良くしようとみんなが頑張り商店街としても成功しているのだから、行政が無理やり計画を進めるのではなく、民間の知恵と創意工夫を活かした町でないと「下北沢」らしさが失われてしまう。

仲原正治

の

まちある記



開店準備中の「NEVER NEVER LAND」店内  
撮影：2013年7月2日



左：「NEVER NEVER LAND」内に掲載されている道路建設反対ポスター  
(撮影：2013年7月2日)

右：なかなか見つけにくい本屋カフェ「B & B」の看板。毎週ライブが行われている。  
(撮影：2013年7月2日)



松田優作が通っていたことで知られるジャズクラブ「LADY JANE」  
撮影：2013年7月2日



左：洗礼者聖ヨハネ世田谷カトリック教会の中庭には、ルルドの洞窟がつけられている。  
(撮影：2013年7月2日)

右：教会建物は戦前フランスから資材を取り寄せ、戦後に建てられている。  
(撮影：2013年7月2日)

## 5) オタク・学生・哲学のまち—中野

筆者は小田急線沿線に住んでいたこともあり、中野をあまり訪れた記憶がない。中野で行ったことのある場所と言えば「中野サンプラザ」と「哲学堂」くらいのもので、中野駅を降りると、サンプラザの建物が目立ち、あとは、あまり印象のない駅前だった。その中野駅前の警察大学の跡地の再開発が昨年一部竣工し、大学をはじめとする施設ができ、街が変わってきていると聞いて、雨の中野を訪ねた。



綱吉の時代に作られた犬屋敷「かこい」をイメージしたモニュメント。中野区役所正面左側に設置されている。撮影：2013年10月15日



陸軍中野学校の碑は、東京警察病院の片隅の植栽の中にあり、樹木が多く碑にたどり着けない。目立たないように配慮しているのだろうか。撮影：2013年10月15日

### 「かこい」と「陸軍中野学校」

江戸時代の初期、江戸城築城のための白壁用の石灰などを生産地の成木地区から新宿追分まで運ぶために青梅街道(当初は成木街道と呼ばれる)が整備され、その最初の宿場町として中野付近は発達した。江戸中期になると多摩地方からの物資の集積地、野菜などを供給する近郊農村として発展する。

徳川綱吉の時代(1680~1709年)、「生類憐みの令」の発布(1687年)に伴い、中野に28万坪におよぶ野犬の収容施設「かこい」がつくられ、8万頭とも10万頭ともいわれる野犬が収容された。綱吉の死後は廃止され、吉宗の時代に桃の木などが植えられ、庶民の花見スポット「桃園」となっている。

明治22年(1889年)町村制施行により、中野、雑色などが中野村に、江古田、新井、鷺宮などが野方村に編入された。同じ年に新宿—立川を結ぶ甲武鉄道(現JR中央本線)ができ中野駅(当初は現在の中野駅から100mほど西にあった)が誕生する。1923年の関東大震災以降、下町から山の手へと居住地が少しずつ動き始め、27年に西武新宿線が開通、野方地域の交通が整備され、交通網の発達に伴って宅地化が進んだ。

1932年に中野区が誕生し、39年には駅前近くに陸軍中野学校が移転してくる。1931年の満州事変以降、日本は軍国化の道を進み、38年に謀報謀略のための「防諜研究所」を作り、その翌年、中野区囀町(かこいちょう)に「陸軍中野学校」を開設した。囀町は、綱吉時代に野犬を収容した施設「かこい」から名付けられ、現在の中野区役所あたりだが、現在は住居表示に存在しない。中野学校は情報工作員、スパイの育成機関なので、生粋の軍人ではなく、東大、早稲田などの一般の大学の出身者がほとんどで、1945年までに2000余人の卒業生を輩出している。

市川雷蔵主演の「陸軍中野学校」が1966年~68年にかけて5本作られているが、クールでニヒルな雷蔵が活躍する姿は子供心にかっこいいものに映った。

陸軍中野学校は終戦前に群馬県富岡市に移転し、終戦と同時に閉校している。その後、この場所は長らく警察大学校、警視庁警察学校として使われてきた。

仲原正治

の

まちある記

## 中野四季の都市（まち）

警察大学校の跡地利用は 1990 年に「中野駅周辺地区整備計画」が策定されたが、実際に府中市へ警察大学校が移転したのは 2001 年で、その年に東京都、中野区、杉並区で「警察大学校等移転跡地利用転換計画案」を策定している。

当初は清掃工場の建設を予定していたが、2003 年に取りやめを決定、その年に、財務省は敷地の一部を警察病院とするため、2ha の土地を財団法人自警会に処分することに決め、東京警察病院が 2008 年 4 月に開院している。

中野区と東京都は 2005 年に中野駅周辺まちづくり計画を策定し、警察大学校等移転跡地利用転換計画案の見直し案に基づく土地処分を財務省に要望した。財務省は、国有財産関東地方審議会に諮問し、答申を得て、2006 年 3 月に売り払い方針を決定している。その後、中野区は 2009 年には中野駅地区整備構想を発表したが、ここでは「駅とまちが融合する魅力的なにぎわい拠点をつくる」ことを基本とし、交通機能の集約化、分担の明確化、歩行者ネットワークの強化など 6 つの整備基本方針をうたっている。



2008 年開院した東京警察病院  
撮影：2013 年 10 月 15 日



国際日本学部が入る明治大学中野キャンパス  
撮影：2013 年 10 月 15 日



薬学、看護学中心の帝京平成大学  
撮影：2013 年 10 月 15 日



国際コミュニケーションプラザが入る予定の早稲田大学は来年度開校のため現在工事中  
撮影：2013 年 10 月 15 日



中野駅周辺案内図（撮影：2013 年 10 月 15 日）

跡地利用計画では、大学や公園、中学校等の公共施設を充実させ、民間利用は住宅、商業、業務施設としていて、2007～08 年には大学 3 校（早稲田、明治、帝京平成）に土地が払い下げられた。民間利用地は一般競争入札を行い、東京建物(株)、昭栄(株)、東京開発 R 特定目的会社が 3 万 4,842 m<sup>2</sup>の土地を 1,437 億円で落札した。

この再開発は「中野四季の都市（まち）」と命名され、2012 年 5 月にはオフィスビル（中野セントラルパーク）が竣工し、キンビールなどの本社機能が入った。公

仲原正治

の

まちある記



「中野四季の都市（まち）」  
周辺案内図  
撮影：2013年10月15日



中野セントラルパーク・サウス棟には麒麟ビール本社が移転してきている。  
撮影：2013年10月15日



サウス棟の1階ロビーはゆったりとした豊かな空間で、待ち合わせなどには便利だ。  
撮影：2013年10月15日



「中野四季の森公園」には多くのキッチンカーが出店している  
撮影：2013年10月15日

共事業として都市計画道路や「中野四季の森公園」(1.5ha)も完成させている。北口の駅前広場を歩行者優先のネットワークを構築するための再整備、東西連絡通路にエスカレータの設置など、人に優しい空間整備を進めている。

2013年春には、帝京平成大学と明治大学が開校し、早稲田大学も2014年に国際コミュニティプラザを開設する。帝京平成大学は薬学部や看護学系、情報学研究科などが中心だが、明治大学の国際日本学部や早稲田大学の国際コミュニティプラザは留学生との相互交流など推進する場としている。全体では約9,000人の学生が通ってくることになる。

バブル経済期に都心から郊外部に移転したことにより、学生が社会の生の情報を得ることが難しくなり、昨今は、都心に研究室やサテライトを作ってきたが、中野で、産学連携を進め、地域や海外との交流を進めることは大学の在り方をもう一度考えるきっかけになると思う。また、約9,000人の新たな流動人口増による経済波及効果は大きい。

## 鉄道と街の発展

1889年に甲武鉄道(現中央本線)が開通し、中野駅が誕生したが、その後、西は八王子まで、東は御茶ノ水まで延伸した。1904年に御茶ノ水—中野間が電化され、1906年には国有化され、八王子—篠ノ井駅間の鉄道と一体となり、御茶ノ水—篠ノ井間が開通している。28年(昭和3年)に新宿—中野間は複々線化し、西に向かって沿線開発は急ピッチに進んでいった。

一方、東京メトロは、1962年の都市交通審議会で「中野方面より高田馬場、大手町、茅場町方面を経て船橋方面に至る路線」として答申を受け、64年には東西線という呼称が決められた。同年、高田馬場—九段下間が開業、66年に中野—高田馬場間が開通し、69年に中野—西船橋間(30.8km)の全線が開通している。中野駅では当初から国鉄との乗り入れを行っており、乗換えなどが非常に便利になっている。

こうした鉄道網を背景に、農地などは昭和40年代にはほとんど姿を消し、住宅地が開発されていった。国勢調査によると、1947年(昭和22年)には16万8000人余だった人口は、55年には約29万人、70年には37万8000人余にまで増えている。しかし、70年をピークに人口は減少し、1998年には29万4000人余と30万人を切っている。この減少傾向は、商業施設や道路整備や公共施設が住宅建設に追い付かず、木造密集地区も生まれ、中野以西に居を移すなど、流動性が高かったことが一因と考えられる。

近年は、交通の利便性の高さが改めて見直され、若年層の居住が増え始め、人口も2013年10月には31万4000人余と増えてきている。

一方、通勤・通学での区内流入人口は、2000年に86,531人だったが2010年には

仲原正治

の

まちある記

92,970人と増加しており、「中野四季の都市」の誕生により、今以上の流入人口増が見込まれる。

中野区は交通体系として「公共交通機関の充実、自転車利用等の推進、環境負荷の少ない交通ネットワークの形成」を目指している。そのため、駅前直近の場所に大型駐輪場を配し、約4500台の自転車駐車スペースを設けているが、現在の駐輪施設は、一部が露天で、景観への配慮が欠けている。

また、自転車利用を推進するならば、現在の南北を結ぶ中野通りの改善や歩行者との分離、導線の充実が求められる。南北を結ぶ道は、自動車を通る中野通りと一体となっていて高架下のため、薄暗くてイメージが良くない。新たな南北通路は2015年頃の完成を目指しているが、南口側には住宅地があり、その開発を考えると容易ではない。



中野駅北口。新設されたエスカレータを上がり、中野通りを超えると「中野四季の都市」につながっている。  
撮影：2013年10月15日



東京メトロ東西線は中央本線と同じホームに停車している。  
撮影：2013年10月15日



中野駅は新宿から中央線快速で5分ほどなので、ひっきりなしに電車が到着する。高架のガード下が南北を結ぶ通路となっている。  
撮影：2013年10月15日



南北を結ぶガード下の通路は、自転車歩行者が共存している。  
撮影：2013年10月15日



左：駅前の露天の駐輪場は雨にもかかわらず満杯だった。(撮影：2013年10月15日)

右：中野駅周辺は自転車放置禁止区域が大きく設定されているが、駅前駐輪場の収容台数が多いためか、放置自転車はあまり見かけなかった。(撮影：2013年10月15日)

## 沿線に「アニメとマンガの町」が多い理由

いつの頃からか、中野区はアニメやマンガの町と言われるようになっていく。中野だけではなく、杉並区の阿佐ヶ谷や高円寺、練馬区の大泉学園など、近辺には「アニメの町」を自称する地区が多い。これらは、大手のアニメーション会社が地域に立地していることが大きく影響している。「ワンピース」などを制作する東映アニメーション(株)は東大泉、虫プロダクションは富士見台、「もののけ姫」のスタジオジブリは東小金井、「ルパン3世」の(株)トムス・エンタテインメントは昨年中野駅前に移転した。こうした大手が中央線沿線や西武線沿線に立地していることが「アニメの町」になっている理由の一つだ。

しかし、アニメ業界は非常に厳しい現実がある。大手制作会社が社員としてアニメーターを抱えると、仕事がある時とヒマな時の差が大きく、経営的に厳しい場合が多い。常勤雇用による人件費増大のリスクを回避するために、アニメーターの多く

仲原正治

の

まちある記



「中野マンガアートコート」では、マンガ・アニメ、声優、音楽など作り手を養成している。

撮影：2013年10月15日



住宅地の中に約180席の小劇場「ザ・ポケット」(写真)のほか、「MOMO」「BONBON」「HOPE」の4劇場が隣接している。

撮影：2013年10月15日



「なかのまちめぐり博覧会」案内書(なかのまちめぐり博覧会実行委員会・中野区発行)

が出来高や業務委託契約で非常勤として働くことになる。練馬区には90に近いアニメーション会社があるが、ほとんどが中小で、大手と連携して作品を制作することが多い。大手の制作会社は分業体制で中小や個人のアニメーターに作業を任せるため、大手の制作会社がある中央線、西武池袋線、西武新宿線沿線に中小の制作会社も集積するようになった。

筆者が横浜市で「クリエイティブシティ政策」を担当していた時期に、「映像文化都市」という目標を掲げ、映像系企業の誘致を進めていた。いくつかの大手や実力のある中小のアニメ制作会社を訪ねて、移転工事費の半額補助などのインセンティブを提示して、横浜への誘致を進めたが、アニメ制作会社は周りに多くの関連会社があることが必要で、横浜への誘致はほとんどできなかった。東京藝術大学大学院映像研究科の横浜誘致には成功したが、それ以外では「ニヤッキ」で有名な伊藤有喜氏の「アイ・トウーン」だけだった。横浜にはアニメ、映像関係企業の集積がないため、芸大映像研究科を卒業する大学院生も横浜での活躍は期待できないのが現状だ。

2011年10月に、廃校した桃丘小学校を活用して「中野マンガアートコート」がオープンした。プロポーザル方式によって、学校法人タイケン学園が選定され、マンガ・アニメ制作や音楽活動の拠点として活動を始めている。現在、マンガ・アニメ・イラスト・声優の育成の「アンプス」や音楽スクール「ウッド」、東京工芸大学などが入居している。11月15日～11月30日の期間、「なかのまちめぐり博覧会」が開催され、アートコートも参加し、まち歩きツアー、イベント、体験、講座など様々な中野の魅力を発見できる。

この旧桃丘小学校は中野駅南口に近く、付近は閑静な住宅地となっているが、地域には1998年にオープンしたザ・ポケットなど4つの小劇場があり、中野の演劇文化の拠点となっている。

## サンモール商店街と南口駅前商店街

中野駅周辺の商店街の基礎は関東大震災以降に住民が下町から山の手に移動してきたことから始まる。大正期に「中野駅北口中通商店街」ができ、震災後は人口の増加に伴い、現在のサンモール商店街の原型である「中野北口美観商店街」ができている。終戦後の1958年にはショッピングアーケードを作り、75年にはアーケードを改築し、商店街の名前も「中野サンモール」と変更している。

サンモールは、中野駅北口の目の前で、商店街として理想的に近い道幅で、ゴチャゴチャ感があり、客は左右両側を散策しながら店舗を見ることができる。太陽をモチーフとした看板の統一、モール天井は船底をイメージしたガラスのアーチを使い太陽光を取り入れ「サンモール」の名にふさわしい工夫をしている。また、7時か

仲原正治

の

まちある記



中野駅北口の目の前にサンモール商店街の入口がある。  
撮影：2013年10月15日



サンモールの天井は船底をイメージし看板は太陽をモチーフとしている。  
撮影：2013年10月15日



サンモールを抜けたところに中野ブロードウェイの入口がある。  
撮影：2013年10月15日



南口本通アーケードには昔ながらの和菓子屋などの商店がある。  
撮影：2013年10月15日

ら 23 時まで 1 時間に 1 回、立体的な音楽が流れる立体音響システムが楽しめる。春には「空中ギャラリー」を実施し、小中学校の生徒の作品も展示するなど、地元を意識したイベントも行っているが、多数の店がチェーン店で地元の店が少ないように思える。

サンモールの突き当たりがブロードウェイで、商店街がそのままビルの中まで続いているように作られている。サンモールの延長線上にブロードウェイを作ったことは計画的には面白いし、当時からお互いの商店街が連携していくという意味の表れだ。一方、南口にはバスターミナルがあり、ファミリーロード、南口本通りアーケード街を中心とした中野南口駅前商店街がある。この地域は、オフィス街ではなく背景に住宅地を抱えているため、地元相手の商店が多いように見受けられる。



左：中野駅南口駅前広場（撮影：2013年10月15日）



右：中野駅南口近辺案内板（撮影：2013年10月15日）

### ★オタクの聖地「中野ブロードウェイ」

中野ブロードウェイが誕生した 1966 年は、東京オリンピック後の不景気が続く中で、ベトナム戦争が激化し、その特需で日本経済が再度高まりはじめ、政治・経済が東京に集中する時期だった。中野ブロードウェイは「美観商店街」（中野サンモール）の突き当たりの場所で、普通の住宅や商店もあり、美観商店街の突き当たりを意識して作られ、地上 10 階建てで、5 階以上は住宅の店舗併用マンションだ。商業施設は小さな個店を集合させた商店街のマンション版で、オープン当時は食品やファッション、雑貨、理美容室、医者など、日常的な買い物を主にした商業ビルだった。また、立地が良いこともあり、住宅は高級マンションとして有名だった。

1970 年代になると、近隣の吉祥寺に伊勢丹(1971-2010)ができ、新宿でも淀橋浄水場跡地の開発(新宿新都心)が動き、周辺の繁栄に押され、中小商店が中心のブロードウェイは集客力が落ち、商店主の高齢化もあいまって閉店する店もでて、家賃も

仲原正治

の

まちある記

下落してきた。

こうした状況下の 1980 年にブロードウェイの性格を一変する企業がビルに入居する。「まんだらけ」である。マンガ古書専門店として、今まで相場が定まっていなかったマンガの世界に切り込み、マンガのマーケットを実現させた。その後はマンガだけではなく、アニメグッズやコスプレ衣装など、あらゆるジャンルのマンガ・アニメなどのマニア向けの商品を扱うようになった。87 年には株式会社組織にし、その後、渋谷道玄坂を手始めに全国 11 か所で営業している。2000 年にはマザーズに上場し、2008 年には秋葉原に自社ビル「まんだらけコンプレックス」をオープンさせているが、本社は中野ブロードウェイに置いている。

ブロードウェイの 1 階は地元の店も多く、2-4 階は漫画、アニメ、関連グッズなどがほとんどでオタク的な店が並ぶ。ビル全体に「まんだらけ」の様々なショップが点在し、あたかも「まんだらけの城（王国）」の様相を呈している。しかし、秋葉原のように、中野の街全体がサブカルチャーの町というのではなく、一部のアタク文化を支えている「場」としてのブロードウェイだ。

内部の骨董店で話を聞くと、先代から引き続き 30 年間、店を維持しているが、この 20 年は客層が変わってきていて、骨董の営業は難しいとのこと。ブロードウェイでは地域の子どもの書いた絵を飾るなど、地元を意識して商売している。

ブロードウェイを通り抜けると早稲田通りにぶつかる。

サンモールとブロードウェイの入口を横断している道を右に曲がると、飲食店、飲み屋街がある。



ブロードウェイに入るとすぐに「まんだらけ」のショウウィンドウがあるが、鉄道グッズが並んでいる。

撮影：2013 年 10 月 15 日



ブロードウェイ内の店舗の 1 階には、昔ながらの衣料品店などもある。

撮影：2013 年 10 月 15 日



階段の踊り場には店舗紹介の看板と地元の小学生の描いた絵が展示されている。

撮影：2013 年 10 月 15 日



マンガの神様が祀られているわけではないが、特徴ある内装を施す店もある。

撮影：2013 年 10 月 15 日



左：早稲田通りからみたブロードウェイ。5 階以上がマンションとなっているのがわかる。

(撮影：2013 年 10 月 15 日)

右：ブロードウェイの裏側にある飲み屋街(撮影：2013 年 10 月 15 日)

仲原正治

の

まちある記

## 中野サンプラザと哲学堂



中野通りに面して建つ「中野サンプラザ」  
撮影：2013年10月15日



ボウリング場の営業時間を  
記すサイン  
撮影：2013年10月15日



「哲学堂公園」にある、四聖堂(哲学堂)と六賢台(右の赤い建物)  
撮影：2013年10月15日

中野で、忘れてはならない場所が中野サンプラザと哲学堂だ。サンプラザは 1973 年にオープンしている。その時代は歌謡曲やフォーク、ニューミュージックが流行っていた時期で、数多くのミュージシャンがこの場で活動していた。

施設は雇用促進事業団によって、雇用保険法による勤労者福祉施設「全国勤労青年会館」として建設されたものだ。2,222 席のホールの他、会議室、研修室を備えたコンベンション、ホテル、レストラン、フィットネス、プール、ボウリング場などを備える複合的な施設となっている。設立当初から立地の良さや各種の娯楽施設も備え、若者文化の発信基地として地方の若者のあこがれの場所で、数多くの結婚式も執り行われた。

行政改革の一環として、勤労者福祉施設の廃止が実施され、2004 年にサンプラザも民間の株式会社中野サンプラザに運営主体が移っている。一時期、流行が廃れたボウリング場は現在でも朝の 5 時まで営業しており、ホールの稼働率も高く、いまでも親しまれる施設となっている。

中野区の計画では、サンプラザは区役所と一体となった開発推進地域に入っていて、近い将来には取り壊される予定だ。昨今の経済状況や人口減少化の中で、新しい施設をつくる必要があるのだろうか、今の施設でも十分な機能と規模を持っていると思われる。

哲学堂は、中野駅からバスで 15 分程度の場所にある。東洋大学の創始者の井上圓了が東洋の孔子、釈迦、西洋のソクラテス、カントの 4 人の哲学者を祀った「四聖堂」を 1904 年に建設したことから、「哲学堂」と名付けられた。その後、聖堂以外に、六賢台、三学亭などの建物が作られ、一帯が哲学を志す圓了の思いを表現している。そのため、聖徳太子、菅原道真、荘子、朱子、インドの龍樹、迦毘羅の 6 人の東洋の哲人を祀った六賢台など、古今の哲学者、宗教者にちなんだ名前が建物や門、道など付けられている。施設は圓了の没後、東京都に寄付され、現在は中野区の施設「哲学堂公園」として管理されており、野球場やテニスコートなどもある。圓了の作った建物の付近は静寂の中に、落ち着いた気持ちで散歩できる空間が残されていて、桜の名所として地域の人に親しまれている。毎年 11 月第一土曜には東洋大学主催の「哲学堂祭」が開催されている。これは圓了が作った四聖堂にちなみ、4 人の哲学者を順番に取り上げる形での講演で、参加者には圓了の遺言により、甘酒、コーヒー、紅茶がふるまわれる。

哲学堂公園には「宇宙館」という建物があるが、これは「哲学とは宇宙における真理を追及するもの」から名付けられている。実利主義的な考え方がはびこる日本の中で、「宇宙の真理」や「人生の在り方」を考えることが少なくなった昨今、人間が不用意に作り出した原発が人類を苦しめている現状や高齢化や少子化の中で、こ

仲原正治

の

まちある記

れからの生き方や日本、世界、宇宙の在り方をもう一度問い直すことも必要なのではと思った。



哲学堂創始者の井上圓了の紹介レリーフ(撮影：2013年10月15日)

## 6) 「住みたい町 NO.1 の実力」 — 吉祥寺

「住みたい街ランキング」という調査を不動産系の会社が実施している。関東地方の常連は、吉祥寺、恵比寿、中目黒、横浜などで、恵比寿以外は山手線の外側が選ばれている。特に吉祥寺はリクルートすまいカンパニーリクルートの調査で4年連続1位に輝き、どの調査結果を見てもトップに近いランキングとなっている。今回は、どこにその魅力があるのか吉祥寺を探索した。

### ★明暦大火(振袖火事)で吉祥寺に人が移住してきた

いろいろな町の歴史を紐解くと、戦争や災害、大きな事件がその町の骨格や個性を作ってきたことが見えてくる。吉祥寺もそうした場所の一つだ。1657年(明暦3年1月18日)に本郷にある本妙寺から出火した火は強風にあおられ、たちまちに周辺を火の海につつま、2日間にわたり燃え続け、江戸城の本丸、二の丸、大名屋敷、社寺など江戸八百八町を焼き尽くした。推計で10万人余の犠牲者をだした日本史上最大の大火だ。(本妙寺出火説には諸説ある)この大火以降、江戸城の天守閣は再建されていない。

翌58年にふたたび江戸で大火(吉祥寺大火)が起こり、本郷元町近く(現在の水道橋の北側)に門前町を形成していた諏訪山吉祥寺付近は前年に引き続き延焼し、その後、吉祥寺は駒込に移転している。(現在も吉祥寺は本駒込町に存在している曹洞宗の寺)

幕府は延焼した本郷付近を大名屋敷とするために、59年に門前町に住む人々を「牟礼野(むれの)」と呼ばれた現在の吉祥寺付近の原野に移転させることにした。彼らは当時、薪や炭、木材などが江戸に運ばれる五日市街道をはさんで両側に、間口約36m×奥行約1150m(20間×635間)の土地を与えられた。井の頭池の豊富な湧水や、54年完成の玉川上水の水利を活用し、新田開墾を進めて村を形成していった。62年には西久保城山町(港区虎ノ門あたり)で焼け出された住民も移住してきた。彼らはかつて住んでいた場所への愛着を込めてその地を吉祥寺村や西窪村(西久保)と命名した。吉祥寺村は入植5年後の64年の検地の際には、35軒175人が居住していたという記録がある。

明治維新後、1868年(明治元年)吉祥寺村は武蔵県に編入され、71年に東京府に編入、翌72年には神奈川県に編入変え、78年に神奈川県北多摩郡吉祥寺村となった。89年(明治22年)に吉祥寺村、西窪村、関前村、境村の4村が合併し武蔵野村になるが、当時の人口は約3,000人、旧吉祥寺村は200戸余の集落だった、その年に新宿一立川間に甲武鉄道(現中央線)が開通したが、駅は新宿・中野・境(現



現在の御殿山通り(風の散歩道)沿いの玉川上水は水量が少ないが、緑あふれる空間となっている。1948年に玉川上水で太宰治が入水自殺をしているが、当時の水量は相当あったと思われる  
撮影：2015年5月17日



井の頭恩賜公園内の玉川上水沿いの散歩道はうっそうとして、多くの野鳥の姿を見ることができる。  
撮影：2015年5月17日

仲原正治

の

まちある記

在の武蔵境駅)・国分寺・立川の5駅で、吉祥寺駅は10年後の99年に開設されている。村は93年に神奈川県から東京府に移管され、東京府北多摩郡武蔵野村大字吉祥寺となっている。1928年(昭和3年)に人口が約1万3000人となり町制に移行し、30年に計測器メーカーである横河電機製作所、38年に中島飛行機株式会社武蔵野製作所やその下請け工場などが相次ぎ進出し軍需産業都市となっていった。

### ★戦後、急激に発展した武蔵野市(吉祥寺)

1889年に開通した甲武鉄道は、1909年に吉祥寺—中野間が複線化された。23(大正12年)の関東大震災では地盤が固かったことが幸いし、武蔵野村は大きな被害を受けなかったため、吉祥寺、三鷹付近は住宅開発が進み、少しずつ都市化していった。30年には甲武鉄道三鷹駅も設置され、帝都電鉄(現京王電鉄)井の頭線は33年(昭和8年)に渋谷—井の頭公園間が開通、翌34年吉祥寺駅まで延長し、全線開通した。

武蔵野製作所付近は昭和19~20年に10回余の空爆を受け、工場は壊滅、周辺民家も被災しているが、吉祥寺駅付近は空爆の記録が見当たらない。昭和初期に駅周辺には商店街が形成されていたが、終戦近くには空爆で鉄道に延焼を及ぼさないように駅近辺の商店街は壊され更地になっていた。戦後、コメなどの主要食糧は自由な売買を規制する配給制度になったが、配給だけでは暮らせないため、主要駅前にヤミ市が形成され、吉祥寺駅前にもできている。吉祥寺は中央線と井の頭線が交差する拠点だったため、人やモノがたくさん集まり、大きなマーケットとなっていった。戦後のヤミ市の名残である「ハモニカ横丁」がまだ活気があるなか、中央線の複々線化事業に合わせるように、東京オリンピック開催年の1964年に駅前の再開発が都市計画決定され、66年に事業計画決定し、工事が始まった。



コピス吉祥寺(旧伊勢丹)  
撮影:2015年5月17日



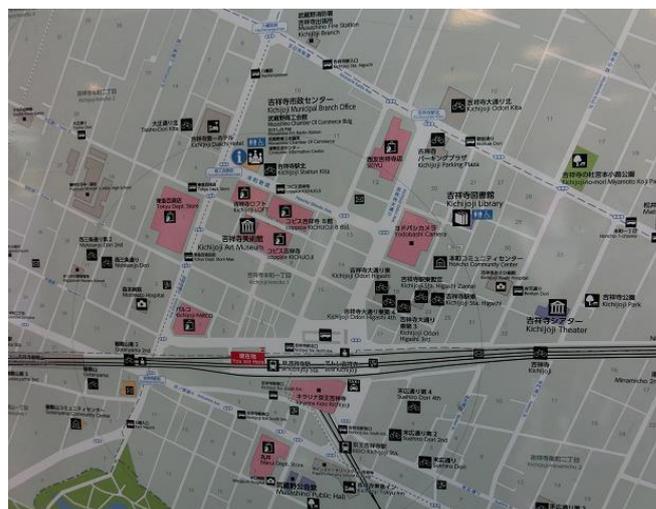
吉祥寺通沿いの東急百貨店  
撮影:2015年5月17日



南口の井の頭通沿いの丸井  
撮影:2015年5月17日



平和通り沿いと吉祥寺通りの  
交差点にある吉祥寺PARCO  
撮影:2015年5月17日



吉祥寺駅付近の案内図(撮影:2015年5月17日)

仲原正治

の

まちある記



吉祥寺大通り  
撮影：2015年5月17日



北口駅前広場は路線バスの  
ターミナルとなっている  
撮影：2015年5月17日



五日市街道沿いの成蹊大学  
(安倍首相出身校)のケヤキ  
並木は樹齢100年を超える。  
撮影：2015年5月17日



武蔵野美術大学吉祥寺校は  
1929年帝国美術学校として  
創立された  
撮影：2015年5月20日



杉並区にある東京女子大学  
撮影：2015年5月20日

69年4月に中央線高架複々線工事が完成し、同年12月には駅ビルの「ロンロン」（現在のアトレ）している。その後、70年に「ターミナル エコー」（京王吉祥寺ビル、2010年に取り壊し、現在はキラリナ京王吉祥寺）、71年には「伊勢丹」（2010年閉店、現在はコピス吉祥寺）、74年に「近鉄百貨店」（2001年閉店、現在はヨドバシカメラ）、74年に「東急百貨店」、78年に丸井が現位置（井の頭通り沿い）に移転、80年には「パルコ」など、大型商業施設が次々にオープンしていく。一方、既存の商店街は、71年に吉祥寺大通りが完成し、同年、北口駅前の商店街をアーケード化にして「サンロード」と命名している。北口駅前広場は87年に供用を開始している。

1947年に人口6万3000人となり武蔵野町は市制に移行した。住宅地の開発が進み、50代から急激に人口が増加し、65年には13万人を超えた。その後、約45年間は13万人台を推移してきたが、この2-3年は増加傾向にあり、2015年6月1日現在で14万3275人と過去最高となっている。65歳以上は3万894人、高齢化率は21.56%だが、周辺に大学が多く、住民票を移していない学生もいるので、実質人口はそれ以上と推測される。

市内には戦前から専門学校として校舎を持っていた亜細亜大学（1950年創立）や成蹊大学（1949年創立）、武蔵野美術大学吉祥寺校（1929年帝国美術学校として創立）日本獣医生命科学大学（1949年創立）などがあり、隣接の三鷹市には国際基督教大学、杏林大学、ルーテル学院大学、杉並区善福寺には東京女子大学があり、吉祥寺・三鷹周辺は学生の町としても発展していった。

## ★吉祥寺四軒寺（しけんでら）と井の頭恩賜公園

吉祥寺という地名だが、吉祥寺という名前の寺はこの地区には存在しない。大火で焼け出された本郷元町の吉祥寺門前にあった安養寺、光専寺、蓮乗寺、月窓寺の四つの寺院が移転してきて、吉祥寺四軒寺と呼ばれている。開拓地への移転だったため、四寺院とも周辺に広大な土地を所有していたと思われる。実際に、甲武鉄道が中野と境駅の間には駅を設置する際には、吉祥寺駅の土地を月窓寺が提供している。終戦後に吉祥寺駅周辺では寺の所有地が多かったためか、公的な区画整理は行われていない。戦後にヤミ市ができ、名残のハモニカ横丁が残っているが、その大部分の土地は月窓寺が所有していると聞いている。昭和40年代の吉祥寺駅前の再開発事業を進めた際に、ハモニカ横丁の区画は再開発をせず、そのままの状態でも現在まで存続しているが、開発時に寺との協議などがどのように行われたかは残念ながら知ることができなかった。

仲原正治

の

まちある記



月窓寺は曹洞宗 1663 年創建  
撮影：2015 年 5 月 17 日



光専寺は浄土宗 1662 年創建  
撮影：2015 年 5 月 17 日



緑と水が豊かな井の頭恩賜  
公園  
撮影：2015 年 5 月 17 日



公園内では、老若男女が散  
歩、ジョギングを楽しんで  
いる。  
撮影：2015 年 5 月 17 日



家光がお茶を点てたと言わ  
れる湧水が出ている場所。写  
真の橋は「お茶の水橋」  
撮影：2015 年 5 月 17 日



地図の北側の本町新道と五日市街道沿いに寺や神社が並んでいる。(撮影：2015 年 5 月 17 日)

井の頭池付近は縄文時代から湧水が豊富で神田川の水源となっており、これを利用して 1630 年頃に初めて江戸に「神田上水」が引かれている。三代将軍徳川家光が湧水でお茶を点てたことから「お茶の水」と呼ばれている場所があるが、井の頭という地名も一説には家光が付けたと伝えられている。地名の由来は「上水道の水源」で江戸まで水を引いていたので井戸の出発点（あたま）という説や「このうえなくうまい水を出す井戸」という二つの説がある。公園の外周は約 4.5 km、面積は約 40 万 5000 m<sup>2</sup>。井の頭池は外周約 1.5 km で、サクラ、ラクウショウ（落羽松）、ヒトツバダゴ、ヒノキ、イヌシデ、モミジなど約 2 万本の樹木が生息している。

日曜日の午前中の井の頭公園にはジョギングや散歩をする人、木陰で休む高齢者、動物園を訪れる家族連れなど、老若男女が集い、ゆったりとした緑の空間を楽しんでいる。自宅の近くに、こんな公園があれば最高だと思った。公園の片隅には 2001 年に三鷹の森ジブリ美術館がオープンしている。井の頭公園の自然の豊かさと一体となった美術館は日曜日だったので、チケットは完売されていて、入ることはできなかった（事前予約制度）。井の頭動物園はその日は開園記念日で無料となっていて多くの市民が訪れていた。

近くを玉川上水が流れ、少し高台の御殿山には家光が鷹狩に訪れた際に、御殿を造営したという言い伝えもある。豊かな自然環境に囲まれた井の頭公園付近は多くの芸術家や文人たちに愛され、小説の舞台にもなっている。今でも、山本有三記念館や野口雨情の書齋「童心居」が残され、太宰治の碑などがあり、閑静な住宅地として愛されている。

仲原正治

の

まちある記



井の頭公園ではボート遊びも楽しむことができる。  
撮影：2015年5月17日



三鷹の森ジブリ美術館のチケットは「ローソン」で予約販売している（2001年開館、延べ床面積約3,500㎡、設計：日本設計）  
撮影：2015年5月17日



三鷹市山本有三記念館は清田龍之介が1926年に住宅として建てたものを36年に山本有三が購入している。  
撮影：2015年5月17日



井の頭恩賜公園周辺の案内図（撮影：2015年5月17日）

### ★中心市街地のまちづくり

吉祥寺駅周辺は、戦後のヤミ市から始まり、中央線複雑々線化に伴う駅前の再開発で現在の町の骨格が形成されてきた。開発できる用地が駅周辺には少ないため、この骨格を変えるのは困難だろう。2007年に発表した「吉祥寺グランドデザイン」では、基本的方向性として「商業と人々の生活が一体となった「我が街」としての成熟」を掲げ、居住空間と商業環境の調和、近隣・周辺からの来街アクセスの向上、生活の質を高める商業サービスや様々な都市機能の充実をうたっている。また、「行ってみたい街・住んでみたい街としての広域的な魅力の維持・創出と都市観光の推進」を掲げている。安易な集客施設整備を行うのではなく、「我が街」として成熟していくなかで「都市生活の場」を意識し、独自の文化やまちの個性を育て、世界に向けた情報発信、広域からの集客・交流など広い意味でのコミュニケーションを促進していくとしている。



サンロード商店街にはシャッターの下りた商店は見かけなかった。（撮影：2015年5月17日）

仲原正治

の

まちある記

蔵野市産業振興計画（平成 26 年度～平成 30 年度）では、地の利を生かした都市型産業を育成し、都市や地域の抱える様々な課題を市民と事業者が一体となって取り組んでいくこととしている。そして、誰もが安心して暮らし、働き、楽しむことのできるまちとして、時代と共に変化し、選ばれ続けるため「まちの魅力を高め、豊かな暮らしを支える産業の振興」を基本理念に掲げている。

こうした中でも、吉祥寺近辺では複数の百貨店の撤退や「ここしかない個店」の閉鎖、高齢化の事業主の店がチェーン店に代わるなど、まちの魅力が少しずつ損なわれてきているという声も聞こえてくる。

また、駅周辺は借地権等の不動産権利関係が複雑化し、老朽化した建物の更新や改築等が進まないことや賃料や保証金、更新料が高騰し、個店が出店できなくなっている状況も見受けられる。それでも、2007 年の対東京都の小売吸引力指数は 1.52 と依然として高く、域外からの買い物客が多く訪れている。

百貨店や専門店などの大型商業施設が駅周辺にはあるが、それにもまして、碁盤目状の区画の商店街に客が訪れているため、土日祝日はイベントのような賑わいがあり、平日も主婦層だけではなく学生も多く、商店街は賑わっている。

「吉祥寺グランドデザイン」策定以降、JR東日本、京王電鉄を巻き込んで駅改良事業が行われ、キラリナ京王吉祥寺の開発に伴い南北自由通路ができ、すこし混雑が緩和されてきた。しかし、南口には駅前広場がなく、バスは狭い道（パークロード）を通り、吉祥寺駅前の道路上で客を降ろしているのが現状だ。これを解決するため 2012 年 3 月に「吉祥寺南口駅前地区再開発準備組合」が設立され、事業協力者として「(財) 首都圏不燃建築公社+三菱地所レジデンス」を選定し、4-5 年後の着工を目指している。計画では約 6,500 m<sup>2</sup>の区域に商業施設、公共公益施設、共同住宅等の複合施設と駅前交通広場の整備を行うこととしている。しかし、準備組合設立から 3 年ほど経つが、現場を見ると、再開発用地にはまだ店が立ち並び、進展していないように感じられた。

今回、現場を見て、現在のように狭いパークロードにバスを通し駅前で降車させることが良いのか疑問に感じた。井の頭通りを迂回して、北口の吉祥寺大通りに誘導して、降車させても良いのではないだろうか。



日曜日の屋ごころのサンロード商店街は、多くの人で賑わっていた。  
撮影：2015 年 5 月 17 日



南北自由通路ができて、格段に便利になった。  
撮影：2015 年 5 月 17 日



南口の「パークロード」には狭い道に次々とバスが入ってきて、誘導員が歩行者の整理をしている  
撮影：2015 年 5 月 17 日

左：朱色で囲んだ部分が吉祥寺南口駅前地区再開発地区（約 6,500 m<sup>2</sup>）  
撮影：2015 年 5 月 20 日

右：再開発を進める地域だが、いまま営業が続いている、再開発計画の表示も見つけることができなかった。  
撮影：2015 年 5 月 20 日



仲原正治

の

まちある記

※小売吸引力指数：各市の人口1人あたりの小売販売額を県の1人あたりの小売販売額で除したもの。地域が買物客を引き付ける力を表す指標。指数が1.00以上の場合は、買物客を外部から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していると思われることができる。  
(経済産業省資料より)

## ★住みたい街NO1の理由

東京ウォーカーが発表した「住みたい街ランキング関東版 2015年」で吉祥寺は1位となっている。リクルートすまいカンパニーが実施するランキングでも4年連続で1位となっている。その理由は、どこから来るのだろうか。

民間調査会社が住民満足度を調べているが、「日常の買い物充実度」「生活支援施設の充実度」「交通機関の利便性」「子育て・教育環境の充実度」「自然や環境の充実度」「自治体公共サービスの充実度」「地域コミュニティ機能」「地域の治安や安全性」「地域の将来性」の9項目について、武蔵野市は高いレベルにあり自治体の住民満足度のトップ3に入っている。

吉祥寺では大型商業施設、コンビニの充実だけではなく、商店街の充実やカフェや飲食店の数の多さがあげられ、日常の買い物充実度はトップクラスだ。また、自然環境は良い川や湖があるか、緑は多いかなど、太陽や水、空気や緑などの豊富さが尺度となるが、武蔵野市は井の頭公園などの大きな公園を抱え緑被率は約25%と高く評価されている。交通機関は、中央線が新宿まで約15分、東京駅まで約30分、井の頭線が渋谷まで20分弱と利便性は非常に高い。子育て環境だが、保育園の待機児童数は東京都全体(日本の大都市全体)で問題になっており、武蔵野市もその例外ではない。病院は武蔵野赤十字病院をはじめ約10の病院、約400の診療所があり、全国に先駆けて有償在宅福祉サービスを始めた武蔵野市福祉公社が1980年には開設されるなど、他の市町村と比べて遜色ない。

武蔵野市の財政力指数は約1.43(2012年度)と、全国のトップテンに入り、東京都では1位となっていて、地方交付税不交付団体となっている。武蔵野市の歳入構造は、個人市民税と固定資産税が多く、大企業からの税収に頼っていないため、安定した財政力を確保できている。裏返せば、高所得者が数多く住んでいると推測され、財政が豊かで行政サービスも充実できる環境にあると言える。

昼夜間人口比は約110(2010年10月1日現在)と隣の杉並区(87)中野区(92)と比べても高い。ちなみに流入者は通勤者で45,373人、学生が15,731人、流出は通勤者39,741人、学生6,830人と、両方とも流入が上回っている。これは学校があり、企業があり、学生や働き手が集まっていることを表している。多摩地区の有数な商業中心地であり、学生の町であり、緑が豊かな町、こうしたことを積み重ねると地域の将来性も高い。駅前には賑わっており、周辺には緑が多く、少し離れると静かな住環境が待っている。住宅としての自然環境の良さ、住み働くための利便性、



南口側の公園通り(吉祥寺通り)の並木も緑が豊かだ  
撮影: 2015年5月17日



大正通り商店街を抜けると  
閑静な住宅地が続いている  
撮影: 2015年5月17日



平日の夕方にもかかわらず、  
商業施設の敷地ではライブ  
が行われていた。  
撮影: 2015年5月20日

仲原正治

の

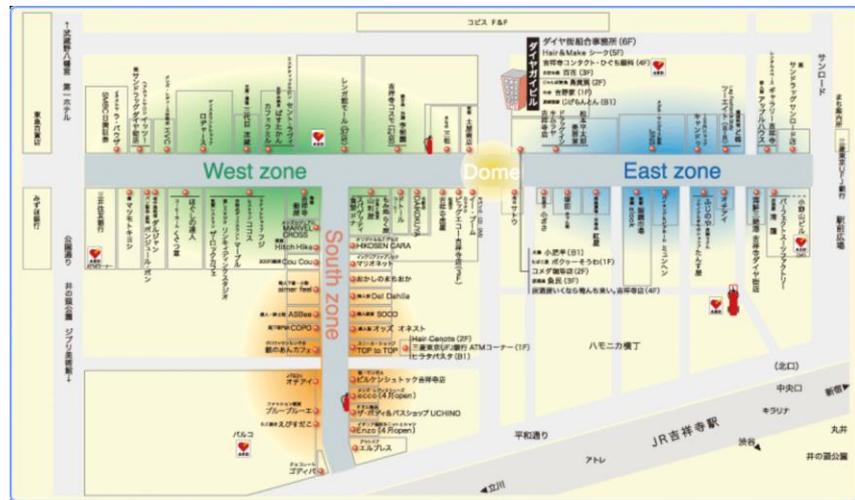
まちある記

週末はほかの都市から多くの来訪者があり、いつもとはちょっと違った非日常空間になる。そうした総合的な魅力が吉祥寺を「住みたい街NO. 1」にしていると考えられる。



日曜日の吉祥寺公園通りとダイヤ街と昭和通りの交差点

撮影：2015年5月17日



ダイヤ街マップ（吉祥寺ダイヤ街商店協同組合ホームページより）



大正通りの入口左に東急百貨店その先に藤村女子中学校・高等学校がある

撮影：2015年5月17日



中道通りは70年代の再開発で駅前から移転してきた店もあり、最近、賑やかさを増している

撮影：2015年5月20日

## ★駅周辺の商店街を散策

北口には駅前広場（バスターミナル）があり、少しゆったりしているが、広場を超えると、ほぼ南北の軸線としてアーケードのサンロード商店街がある。サンロードの中間あたりに月窓寺があり、その先は五日市街道で、街道を超えると閑静な住宅地が広がっている。

サンロードとほぼ直角に平和通り、ダイヤ街、元町通り、ペニーレインなどがあり、この区画にパルコ、コピス、LOFTなどの大型商業施設と商店街が並んでいる。吉祥寺通りを超えた西側には中道通り、昭和通り、大正（東急）通りがあり、東急百貨店、ユニクロなどが並び、各通りに様々な店舗が軒を連ねている。これらの商店街を進むと、離れるにつれて閑静な住宅地になり、一戸建ての住宅地域となる。日曜日の昼頃の商店街を訪ねて、まずは人通りの多さに驚いた。吉祥寺周辺に住む人だけでなく、周辺の町からの客が多いようだ。また、大学も高校も近いので若者の比率が多く感じる。

サンロード商店街だけではなく、平和通り、ダイヤ街、元町通りなど、どの通りも多くの客で賑わっている。精肉店「さとう」では「メンチカツ」を求める人で行列ができ、「ハモニカ横丁」にあるパスタ店も行列ができています。吉祥寺に住む友人に話を聞くと、土日に吉祥寺駅周辺で食事をしようとすると、30分以上は待つ覚悟がいると言われた。

中道通り、昭和通り、大正通りには専門店やしゃれた飲食店や隠れ家的な店、添加

仲原正治

の

まちある記

物を使用しないパン屋などがあり、若者たちの姿も多い。少し離れた五日市街道沿いにも店舗が増えてきていて、少しずつ、市街地が拡大しているようだ。

ハモニカ横丁は、戦後のヤミ市の名残のある地区で飲食店のほか、鮮魚店やブティックなど約 90 店舗が狭い路地に張り付いている。筆者はこうした路地が大好きだが、ハモニカ横丁は安全・安心という防災上の観点からすると厳しい地域で、たびたび再開発が話題に上っている。権利関係が複雑なので再開発が難しいということを知り、こうした昭和レトロな地域が残っていくためには、ここで営業する人が衛生の確保、防災意識や訓練など、日頃からの心がけや備えを万全にしておくことが求められる。

南口の井の頭通りは、自動車のメイン導線で、自家用車やバスがひっきりなしに走っている。バス停も多く、ここから武蔵境や調布方面のバスが出ている。パークロードには飲食店が多く、夜の賑わいがある。

商業地はコンパクトにまとまり、優良な商業施設、飲食店があり、少し行くと閑静な住宅地と緑あふれる井の頭公園。一言で表現すると「住宅地は落ち着きがあり静かで生活環境が良く、駅前は楽しさや祝祭感がある街」。それが吉祥寺の魅力だろう。



ハモニカ横丁の入り口  
撮影：2015年5月17日



ハモニカ横丁の路地の幅は狭く、両側に店が並んでいる  
撮影：2015年5月17日



ハモニカ横丁内のパスタ店には日曜日の昼は行列ができています  
撮影：2015年5月17日



南口の丸井の前の井の頭通りは交通量も多く、バス停が並び、パークロード沿いには多くの飲食店が軒を並べている  
撮影：2015年5月20日



北口周辺案内図（オレンジで囲んだ部分がハモニカ横丁）（撮影：2015年5月17日）

仲原正治  
の  
まちある記

「仲原正治のまちある記—東京の魅力と危機感その2 編」

著者：仲原正治

発行：2017年3月

「仲原正治のまちある記」は日経BP社「ケンプラッツ」の記事を加筆・訂正したものです。この文章及び写真（提供写真を除く）については、出典さえ明らかにしていただければ「著作権フリー」です。

仲原正治（なかはら まさはる）略歴

(株)MZarts クリエイティブ・ディレクター(陶磁器・現代アートギャラリー)

1949年東京生まれ。1974年東北大学法学部卒業。

文化芸術によるまちづくり及びクリエイティブシティ政策の専門家。

2011年4月から2015年12月まで、日経BP社の総合サイト「ケンプラッツ」に「まちある記」を連載。全国の中心市街地、東日本大震災の被災地のレポートなど、特徴あるまちづくりを紹介している。

主な著書：「横浜市創造都市事業本部 2586日の戦い」（インターネット出版）。

現在、NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター理事、赤煉瓦ネットワーク通信員。